週刊 YEAR BOOK

1900
明治33年

日録20世紀

2|23
平成11年2月23日発行
(毎週1回火曜日発行)
第3巻第7号 通巻99号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

20世紀前夜

「パリ万博」、華やかに開幕！

「義和団事件」と日本軍の馬蹄銀掠奪！
死刑執行第1号！ 横浜「ミルラー殺人事件」
"汽笛一声 新橋を"と「鉄道唱歌」大ヒット！

日本も「鳥獣戯画」や御物など2万6460点を出品
夏目漱石の目を奪った20世紀に向けての大イベント

「パリ万博」、華やかに開幕！

▲エッフェル塔を中心に各国の巨大な建造物が建てられ、展示が行われた。なおエッフェル塔は、1889年の「パリ万博」の際に建てられた。 ユニフォト・プレス

二〇世紀を目前に控えたこの年、一九〇〇年四月一四日、一九世紀の最後にして最大のイベント、「パリ万国博」が開幕した。「進歩の一九世紀」の文明の成果を結集したこの博覧会は、新世紀直前の開催ということで、きわめて祝祭的な気分に満ちていた。会場の動力にはすべて電力が用いられ、「動く歩道」も登場する一方で、新芸術運動のアール・ヌーボー様式であふれた。

一九世紀を集大成しベル・エポックを招く

「〃パリス〃ニ来テ見レバ其繁華ナル㆑、是亦到底筆紙ノ及ブ所ニ無之、就中道路家屋等ノ宏大ナル㆑、馬車電気鉄道地下鉄道ノ網ノ如クナル有様、寔ニ世界ノ大都ニ御座候」

一九〇〇年一〇月二三日、パリに到着したばかりの夏目金之助（三三＝漱石）は妻の鏡子宛の手紙にこう記した。漱石ら日本人留学生一行は一週間滞在し、「パリ万国博覧会」を三回訪れている。この手紙には、「進歩の一九世紀」を象徴する万博を目のあたりにし、その宏大さに圧倒されている様子がよく表れている。

「パリ万博」は一九〇〇年四月一四日から一一月一二日までの七ヵ月間にわたって開催された。パリではこれ以前に四回の万博が催されたが、世紀の最後の年に開かれたこの万博は、過去一世紀の産業、科学技術、文化を集大成し、新しい世紀への展望を企図したものであった。

パリで開催された万国博に関する資料を広範に集め、『絶景 パリ万国博覧会』

▲19世紀に別れを告げ、20世紀を展望する「パリ万博」会場のにぎわい。 バートン・ホームズ／The Burton Homes Collection,Department of Art History,UCLA／デジタルハウス（3点とも）

◀「パリ万博」であげられた気球。正面はルーブル美術館、右はカルーゼルの凱旋門。

▲7ヵ月にわたる会期中の入場者は4800万人を数え、従来の万国博入場者の最高を記録、どの会場も、賛嘆の声に沸いた。

◎表紙　この年4月14日から11月12日まで、シャン・ド・マルスで開催された「パリ万国博覧会」会場。写真手前はセーヌ河。 HULTON GETTY／オリオン・プレス

(河出書房新社)を著した共立女子大教授の鹿島茂氏は、「一九〇〇年の『パリ万博』の建築様式は、装飾過多の一九世紀的なものであったが、テクノロジー面では二〇世紀を予知するものでした。この後登場する無線電信や潜水艦、タンクといった武器などは、すべて出品されました」と、その位置づけを語る。

博覧会の本館は、シャン・ド・マルスに建てられた。建材に鉄鋼を使った長さ五〇〇メートル、幅一二五メートルの巨大建築である。展示館も一八八九年のエッフェル塔建造の経験を生かして、ほとんどが鉄筋コンクリート造りであった。また、アレクサンドル三世橋やプティ・パレ(小殿堂)、グラン・パレ(大殿堂)、今では美術館となっているオルセー駅もこの時に建造された。しかも会場全体には、世紀末を代表するアール・ヌーボー(新しい芸術)の装飾があふれていた。

こうした斬新で美しい建造物群やデザインとともに注目されたのは、「動く歩道」だった。長さ三・六キロのコースを、時速四キロと時速八キロの二とおりのスピードで、一時間に六万三〇〇〇人の見物客を運んで大人気となった。さらに、七月一九日には地下鉄(メトロ)も開通。動く歩道とメトロ、そして万博開催をにらんで前々年の一八九八年に営業を始めた電動の大観覧車は、まさに「パリ万博」の目玉となった。

▲「万国博」会場を走る7両編成の電車。交通手段は馬車が一般的だった時代だけに、"電気"で走る乗りものは、人々を魅了した。 ラルース・アーカイブ/ユニフォト・プレス

◀二〇世紀初頭の東京・日本橋。新しい技術は日本にもおよんでいた。 小川一真「東京風景」

「パリ万博」では、産業革命がもたらした鉄と電気による機械技術文明が花開いた。そして、それは"ベル・エポック(よき時代)"の到来を告げるものでもあった。人々は鉄と電気の文明を謳歌し、世紀の饗宴に酔いしれたのである。

文化社会学者の吉見俊哉東京大学助教授は『博覧会の政治学』(中公新書)の中で、この時代を次のように書いている。

「帝国主義はめくるめく祝祭気分のなかに曖昧に溶解し、人々を帝国の富がもたらす楽しみでいっぱいの消費のユートピアへと誘っていたのである」

貞奴や新橋芸者など日本人女性が大もて

「パリ万博」には世界から三七ヵ国が参加し、入場者は四八一〇万人に達した。↖

日本も「鳥獣戯画」や御物など2万6460点を出品
夏目漱石の目を奪った20世紀に向けての大イベント

「パリ万博」、華やかに開幕!

日清戦争に勝利して世界列強の仲間入りをめざす日本は、「パリ万博」を国威発揚の場にしようと並々ならぬ力の入れようであった。その意気ごみは、出品点数二万六四六〇点、総重量五二二トン余という数字からもうかがえる。

日本はトロカデロに法隆寺金堂をモデルとした特別展示館を建て、館の前に日本庭園を造設した。日本から材料を持ちこめなかったため、屋根瓦は銅色に塗った亜鉛で代用した。室内は格天井にして竜鳳花卉の紋様で彩り、壁に彫った天女のまわりには鳳凰や紗綾形を配すという本格的なものである。

展示物も豪華版だった。京都・高山寺の鳥羽僧正作と言われる「鳥獣戯画」や肥後の細川家に伝わる能装束、さらには御物などの超一級品ばかりであった。これらの伝統的な美術工芸品は、極東の後進国と思われていた日本の文化の高さを世界に認めさせるに十分だった。

日本文化とともに注目をあびたのは、日本の女性だった。一八六七年(慶応三)の「パリ万博」に登場して、その美しさをフランス人の目に焼きつけた芸者が、今回も参加したのである。参加したのは、新橋・烏森の若太郎、すみ子、太助、勝太、寿美龍、喜扇、蝶々の芸者衆七人と料理屋「扇芳亭」の女将・岩間おくになど、総勢一五人と言われる。

横田順彌の『明治不可思議堂』(筑摩書房)は、当時の模様を次のように書いている。

「一行は博覧会のあいだ、舞台出演をぶじつとめあげた。ひととおりの踊りなどを見せたが、品のいい長唄などはウケず、道化踊りの滑稽ものが、一番評判がよかったそうだ」

芸者衆に遅れること約一ヵ月の六月末、川上音二郎(三六)の一座がパリ入りした。万博会場内に新設された「ロイ・フラー座」の柿落とし公演に抜擢されての登場である。芝居は、やたらに武士が腹を切る「ハラキリ物」が中心で、一一月三日の終演まで一二三日間続演し、公演総数はなんと三六四回におよんだ。

特に川上貞奴(二九)の人気は高く、貞奴が振袖姿で夜会に出席すると満場の注目を集めた。しかも、「ヤッコドレス」という和洋折衷の夜会服が大流行し、ついには香水「ヤッコ」も発売されるにいたった。八月一九日にはエリゼ宮で催されたルーベ大統領の園遊会にも招かれた貞奴は、大スター扱いされている。一一月五日には音二郎、貞奴の夫婦に「オフィシエ・ド・アカデミー三等勲章」が授けられた。

一九世紀に別れを告げ、二〇世紀を迎える「世紀の祭典」で、日本の文化と日本女性はその美しさをいかんなく発揮してみせたのであった。

慶応義塾で「世紀送迎会」

明治33年12月31日、東京・三田の慶応義塾で、19世紀を送り20世紀を迎える「世紀送迎会」が、学生主催で開かれた。出席したのは福沢諭吉(66)をはじめ、塾教員、学生約500人。会は午後8時から大広間で始まった。塾頭などの挨拶の後、少壮教員の林毅陸が「19世紀は絢爛たる文明の花を咲かせたが、これを培養してみごとに結実せしめるのは、実に20世紀に生きる我らの責務である」との「世紀送迎の辞」を読みあげた。

零時近くになって、一同は運動場に移る。運動場にはかがり火がたかれ、「階級制度の弊害」や「蓄妾の醜態」など3面の風刺画が掲げられていた。午前零時、学生がそれらに火を点じると、19世紀の悪習は燃えてなくなり、代わって仕掛け花火による「二十センチュリー」の大文字がくっきりと浮かび上がった。福沢は20世紀最初の日であるこの日、「独立自尊迎新世紀」と慶応義塾の教育精神を、墨痕鮮やかに大書した。

◀福沢諭吉。二〇世紀に入った明治三四年二月三日に亡くなる。

▶法隆寺の金堂を模した日本の特別館(写真)。日本政府は「パリ万博」を国威発揚の場にするため、四年前から準備を進め、美術工芸品などを出品。

2万2000人の大動員で“中国分割”に参加
北京城内で引き起こした「馬蹄銀事件」
「義和団事件」と日本軍の掠奪！

は、掠奪・惨殺・放火などの暴行をはたらき、北京市民を恐怖におとしいれた。写真は、義和団員を路上で処刑する光景。

▲連合軍の将兵たち

「将来、文明の伍伴に入るやいなやの試験時期なり」——徳富蘇峰がそう記した「義和団事件（北清事変）」。明治三三年七月に起きたこの事件は、彼の指摘どおり、中国分割に狂奔する欧米列強の前で、日本がデビューを飾った“晴れ舞台”だった。中国民衆による排外運動を連合軍の一員として鎮圧し、他国軍並みに金品の強奪などにも加わった日本は、帝国主義国家への道を歩み始める。

◀明治三三年、北京における義和団の街頭宣伝活動。義和団は連合軍の北京占領で姿を消す。

ユニフォト・プレス

北京に迫った数十万人に一一ヵ国の公使館が孤立

「望遠鏡をあてがって見るに、（天津城の）南門の上に大きな日の丸があざやかに見えている。それから今一つ煙の中の高い鼓楼に旗が見える。よくよく見ればそれも日の丸。愉快、愉快と覚えず叫んだ」（『堺利彦全集』第一巻）↖

明治三三年七月一五日、取材で清国に渡っていた「万朝報」の記者・堺利彦（二九）は、「義和団事件」の“天王山”と言われる天津城攻撃で、先鋒をつとめた日本兵の活躍に拍手を送っていた。

二日前の一三日夜、暗闇の中で作業を開始した小島鑑三郎大尉率いる工兵隊は、翌一四日午前三時、耳をつんざくような爆音とともに、天津城南門を爆破。一気に城内に飛びこみ、肉弾戦で清国軍を制圧したのである。同日午前五時、天津城の城壁に日章旗がひるがえった——。

日本軍が鎮圧した「義和団」は、古来の白蓮教の支派で、義和拳という武芸習得者の秘密結社。「義和団事件」は、「扶清滅洋」をスローガンに掲げる義和団が、日清戦争（明治二七〜二八年）後に加速した欧米の中国進出に反感を抱く民衆と一体となり、清朝の保守的な皇族などの保護を受けて起こした事件だった。

事件の経緯は、この年二月から四月にかけて河北省に進出し、数十万人規模に膨れあがった義和団が、五月二八日に天津を占領、北京へ迫った。そこで、北京城内にある一一ヵ国の公使館が孤立。そんな最中、六月一一日に日本公使館の杉山彬書記生（三八）が、二〇日に独公使のケテラーが殺され、翌二一日、清朝の西太后（六五）は列強に宣戦布告した。

日本は六月一五日の閣議で、清国臨時派遣隊の編成（司令官は福島安正陸軍少将＝四七）を決定。八ヵ国（イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシア、日本、イタリア、オーストラリア）の兵員計三万三八四四人（北京占領時）中、最大の約二万二〇〇〇人を派兵する。

「当時の日本は、日清戦争の賠償金約三億円をもとに、大兵力を派遣するだけの軍事力を備えていました。また、ボーア戦争で兵力をさけない代わりに、日本を表舞台に引きずり出して中国進出を加速するロシアを牽制しようとした英国の思惑も大きい。日本は英国との関係にも配慮して、派兵要請に応じました。もちろん、日本の国際的地位の向上と欧米列強への仲間入りが、究極の目的でした」

日本が大兵力を送りこんだ真意について語るのは、『義和団戦争と明治国家』の著者・小林一美神奈川大学教授である。

幸徳秋水が蛮行を暴露

天津占領に続く、八月一四日の北京城攻撃でも、日本軍は八ヵ国連合軍のうち最大の兵力で戦い、公使館の籠城者を救出。連合軍は北京を占領し、西太后は西安に逃げた。

日本軍の活躍は、「軍規の厳正さ、勇気はつらつたるは賞賛に価する」（「スタンダード」紙）などと、英国のマスメディアを中心に、外国でも報じられる。

こうして順調に初舞台を飾った日本軍だが、その実態は外国メディアの賞賛からはほど遠いものだった。当時、連合軍は陥落後の北京城内などで、米穀や武器から貴重な陶磁器、金銀にいたるまですさまじい掠奪を展開していた。北京城に一番乗りした日本軍も——全体の件数は他国軍より少なかったものの——米や銀などを、組織や個人で強奪していたのである。

たとえば、八月一四日夜、福島司令官は、歩兵第一一連隊を率いて清朝の金庫を襲い、一九一万四八五六両の銀塊を奪った。ロシア軍のリネウィッチ中将は、八月一七日、日本の一人占めに抗議したという（『義和団戦争と明治国家』）。

こうした日本軍の蛮行を暴露したのが「万朝報」である。幸徳秋水（当時・三〇歳）、堺利彦らは、明治三四年一二月

▶八ヵ国の連合軍兵士の記念撮影。まさに帝国主義列強の縮図である。日本に次ぐ大量出兵国は、ロシアだった。

毎日新聞社

▲北京籠城の日本軍。6月10日、日本公使館員や北京在留者は、柴五郎中佐らの指揮のもとに防備についた。8月15日、増援軍の到着で解散。

毎日新聞社

から五〇回にわたる「北清分捕の怪聞」という同紙上での連載で、その掠奪行為を批判した。

「真鍋（斌少将＝四九）は厖大な量の金塊・銀塊を広島の御用商人保田八十吉に預けた。それから真鍋は急に金持となり、広島の料理屋で連日酒と女にうつつをぬかした」（明治三四年一二月三一日付）という具合にである。さらに、内部告発として、次のような元兵士からの投書も掲載された。

「私が知っている最も激しい掠奪行為を働いたのは『山口屯在歩兵第四二聯隊である』。とりわけこの聯隊の成川・国弘の両大尉の掠奪はひどく、彼らは『分捕隊長』とよばれた」（深川区在住MN生）

こうして、「規律整然、秋毫も犯すなき」と信じられていた日本の軍人が、金品を奪っていたことが発覚。関係者の家宅捜索なども招く、大スキャンダル事件「馬蹄銀事件」に発展するのである。

「軍人イコール高潔という庶民の幻想を打ち砕いた『馬蹄銀事件』では、時の山県有朋首相や桂太郎陸軍大臣らによる事件もみ消し工作も行われます。結果としては、〝長州閥のホープ〟と目された真鍋斌少将一人が監督不行届で休職処分となることで決着しますが、軍事権力を握る長州閥はこれで大打撃を受けました」（小林教授）

▲連合軍に捕らえられ、投獄された義和団。義和団は明治31年夏頃から山東に現われ、排外・反キリスト教を旗印に掲げた。 HULTON GETTY／オリオン・プレス

一方、「敵兵なかなか強し」とその奮闘が国内にも伝えられた義和団は、八月中旬には、北京を占領した八ヵ国連合軍によって鎮圧された。

一一ヵ国と清国との間で、「北京議定書」（辛丑条約）が調印されたのは、明治三四年九月七日。内容は、清国官僚の処罰、列国への四億五〇〇〇万両の賠償金、北京公使館区域への外国人護衛兵常駐などだった。これ以降、清朝政府の権威は失墜。反対に、外国勢力の進出や統制が強化され、一〇年後の孫文の「辛亥革命」による共和制開始への道を開いた。

冒頭で日本軍の勇敢さをたたえた堺利彦は、戦闘の悲惨さを実感し、掠奪報道にたずさわったことで、「義和団事件」後、急速に社会主義へ傾いていく。

英国から「極東の番兵」としてのお墨つきと、中国領土での駐兵権を得た極東の新興国・日本は、早熟な帝国主義国家への道をつき進み始めるのである。

▶義和団の攻撃によって破壊された、イギリスの公使館。 HULTON GETTY オリオン・プレス

女たちの肖像

六歳で渡米して以来の「夢」新しい日本女性育成のため津田梅子、女子英学塾開校！

稲葉真弓

日本の女子教育のパイオニアとして知られる津田梅子（三五）が、その生涯をささげた私塾、女子英学塾（現・津田塾大学）を東京・麹町に開いたのが、この年の九月一四日のこと。集まった生徒は一〇人だったが、梅子はこの塾を、広い視野を持った新しい日本女性の育成の場とするため、すべての公職をなげうってスタートさせたのである。彼女にとっては、アメリカに渡って以来、二九年目の「夢」の実現だった。

元治元年（一八六四）一二月、梅子は、西洋農業を日本に導入した先達として著名な津田仙の次女として江戸・牛込に生まれた。日本初の海外女子留学生五人のうちの一人として、ワシントンの地を踏んだのは明治四年一一月、わずか六歳の時である。少女たちを迎えたワシントン駐在の少弁務使（公使）の森有礼が「こんなベイビーを寄越して、どうすればいいのだ！」と嘆息したという。

ところがこの〝ベイビー〟は、強靱な精神力によって異国の暮らしに耐え、綿が水を吸うようにアメリカ文化を吸収、勉学に励んだ。帰国したのは一一年後の明治一五年のことだが、真っ先に取り組んだのが「日本語をおぼえることだった」というほどアメリカ人になりきっていた。

その彼女が、下田歌子の桃夭女塾、華族女学校の教授、再度のアメリカ留学を経て日本の女子教育に傾倒していくのは「国費留学生としての借りを返さなくてはならない」という責任感のほかに、海外で学んだ高等教育の素晴らしさにあった。日本女性の地位向上と輝かしい未来は「良妻賢母型教育」ではなく、「リーダーとなる人を育てる教育」にあると確信した彼女は、たった一人で学校創立に立ちあがる。これを支えたのが、アメリカ時代の友人、アリス・ベイコン、アナ・ハーツホーンらである。アリスは篤志家から寄付を集めて来日、アナもまた塾で教えるために駆けつけ、梅子の夢は、彼女の志を汲んだアメリカ女性の友情と協力によって実を結んだのだった。

塾は次第に名声が高まり、明治三七年専門学校の認可を受けた。翌三八年、梅子は日本YWCAの初代会長に就任。この後も彼女は海外視察や講演に飛びまわったが、大正八年、脳出血で倒れ、昭和四年、鎌倉の別荘で永眠した。

▶女子英学塾開校当時の、津田梅子（左）とアリス。 津田塾大学提供

勝者・敗者

明治時代の競馬界で最強オーストラリア産の「ミラ」輸入されて以来七連勝！

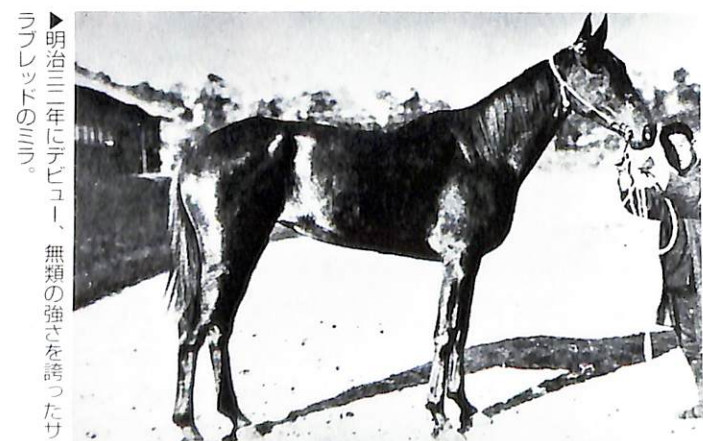
阿部珠樹

明治時代は、末期に始まった馬券禁止政策をのぞけば、意外なほど競馬のさかんな時代だった。明治天皇はしばしば競馬観戦に出かけたし、外国人が馬主になるケースも多く、華やかな社交の色彩は、現在以上に強かったとも言える。しかし、明治三〇年代までに競走馬として使われたのは日本産と中国産の馬がほとんどで、種の改良という点では見るべき点は少なかった。

そこに新たな息吹を吹きこんだのが、明治三二年、オーストラリアから輸入された三〇頭の馬である。これらの馬は血統こそはっきりしていなかったが、ほとんどがサラブレッドで、後々まで日本の競馬に大きな影響をおよぼしていく。

その三〇頭の中の最強馬がミラである。ミラは、輸入された明治三二年の一一月にデビューし、二連勝を飾る。そしてこの年、明治三三年になると、もう敵はいなかった。五月と一一月の横浜競馬に出走したミラは「横浜ダービー」（現在のダービーとは関係ない）をはじめ、次々にレースに勝って五連勝、デビューから数えると無敗の七連勝を飾った。

ミラは、当時の登録馬名簿によると「RED」、すなわち現在で言う栗毛だったという。残された写真を見ると、さして大柄ではないが、均整のとれた体を持ち、顔の星と聡明そうな目が印象的だ。ミラの馬主は「ロシヤ氏」。といっても、もちろんこんな名前の人物がいるわけもなく、ロシア公使館の職員が共同で所有していたものだった。このあたりにも、当時の競馬の国際性がうかがわれる。

ミラは八連勝目をかけた一一月二日のレースで、ライバルのゼカウントに苦杯をなめさせられるが、翌明治三四年五月には、そのゼカウントを、一マイル（約一六〇九メートル）一分五〇秒〇の、当時としては破格のレコードで破って借りを返した。このタイム、現在では一八〇〇メートルの平均タイムで、一世紀の種の進化がうかがえる記録と言える。

▶明治三二年にデビュー、無類の強さを誇ったサラブレッドのミラ。 JRA提供

ユニフォト・プレス

▲「トスカ」初演(1月14日) 緊迫した場面の連続と情熱的旋律、詩情豊かな恋物語に、ローマのコンスタンツィ劇場は連日満員。作曲者・プッチーニ(写真)は世界的名声を獲得、「トスカ」はイタリアオペラの最高傑作と言われた。

ユニフォト・プレス

▲パリの地下鉄工事進む(1月) 「万国博」開催の4月完成をめざしたが、全線開通は7月になった。ボストンに次ぎ、世界で5番目の地下鉄。一部でケーソン工法(写真)を取り入れた。

▼小錦、最後の土俵入り(1月) 入幕から大関2場所目まで負け知らず、「白象の狂うが如し」とその強さをたたえられた人気横綱が、ついに正月場所を最後に引退した。32歳だった。

「太平洋」

▲雑誌「歌舞伎」創刊(1月31日) 森鷗外の弟・三木竹二(32)が主宰。安田善之助の後援を得、明治41年の竹二死後も続き、大正5年まで175号発刊。役者評判記的記述でなく、劇評を展開した点で画期的だった。

「日本の幼稚園」

「日本幼児保育史」

◀▲二葉幼稚園、開園(1月10日) 日本初の本格的常設託児所。華族女学校幼稚園の保母でクリスチャンの野口幽香(33、写真)と、保母の森島峰が、貧困家庭を対象に創設。東京・麹町の、8畳・6畳・2畳2間の借家だった。

▼凸版印刷、誕生(1月23日) 大蔵省印刷局でお傭い外国人・キヨッソーネに学んだ技師らが会社を設立、東京・秋葉原に工場(写真)を建設した。最初の製品は、岩谷天狗煙草のパッケージだった。

凸版印刷提供

明治33年1月

- 1(月) ●政府発行紙幣が通用禁止となり、紙幣の日本銀行券一本化が成立。
- 2(火) ●ニューヨークに電気自動車の乗合バスが登場。
- 3(水) ●硯友社新年会、出席者一〇〇人超す大盛会に。
- 4(木) ●横浜正金銀行、中国・牛荘支店を開設。中国人買弁(仲介業者)利用をやめた初の支店。
- 5(金) ●民族独立めざすアイルランドの連合国民党、民衆に蜂起をうながす。
- 6(土) ●インドで三〇〇万人が飢餓、と通信社が報道。
- 7(日) ●ボーア戦争の影響で鉄価が騰貴中、と新聞に。
- 8(月) ●米では馬車馬の酷使も動物虐待罪、と新聞に。
- 9(火) ●水害地方地租特別処分法を公布。明治三二年七~一〇月の洪水被害地に適用。
- 10(水) ●野口幽香ら、東京に貧困家庭向け託児所開設。
- 11(木) ●子どもが犬に噛まれて死亡した事件で、栃木地裁、飼い主に二三〇円の賠償を命令。
- 12(金) ●東京で小児のジフテリア流行、と新聞に。
- 13(土) ●長野県松本町の普通選挙同盟会、一〇〇〇人の連署で日本初の普通選挙請願書を衆院提出。
- 14(日) ●金沢市が市事業費不足に困り、旧藩主・前田家に一〇万円を借用申し込み、と新聞に。
- 15(月) ●東京市、ペスト予防のためネズミ買い上げ。
- 16(火) ●東京―京都間などに長距離電話開通。
- 17(水) ●東北に大雪、盛岡以北で汽車発着時間乱れる。
- 18(木) ●外国式捕鯨は資源の利用率が低い、と新聞に。
- 19(金) ●皇后、東京帝大付属病院などの入院患者に、寒気対策として木綿裏地などを下賜。
- 20(土) ●米国で、黒人議員が提出した、リンチを犯罪とする法案が却下される。
- 21(日) ●全国仏教徒大会、政府の宗教法案反対を決議。
- 22(月) ●九州で農民同盟会結成。選挙権拡張を要求。
- 23(火) ●凸版印刷設立(社長・河合辰太郎)。
- 24(水) ●伊・仏、紅海沿岸の領土境界議定書に調印。
- 25(木) ●農商務省、外国人は商業会議所会員となることをえず、と通告。
- 26(金) ●米・スタンダード石油は、日本での石油探鉱の主力を新潟から北海道に移した、と新聞に。
- 27(土) ●北京列国公使団、清国に義和団鎮圧を要求。
- 28(日) ●社会主義研究会が社会主義協会と改称。会長安部磯雄、会員に幸徳秋水ら四〇人。
- 29(月) ●米プロ野球、アメリカンリーグ設立。ナショナルリーグとの二リーグ時代始まる。
- 30(火) ●メキシコがコーヒー輸出税全廃、と新聞に。
- 31(水) ●雑誌「歌舞伎」創刊(三木竹二主宰・編集)。

ニュース・ファイル

1900

フォト+日録で再現する365日

アール・ヌーボーと動く歩道、世紀末と二〇世紀を混在させたパリ万博に、留学中の夏目漱石は圧倒された。一方、日本は、「義和団事件」への大量出兵で、ようやく国際的地位を高めようとしている。そんな中、伝統と文明発達を歌いこんで「鉄道唱歌」が大ヒットした。

◀古河市兵衛(68)、まげを切る(9月28日) 従五位に叙せられたのを機に、井上馨・渋沢栄一らの見守る席で断髪。「明治三丁髷(ちょんまげ)」のひとつが消えた。古河は、「鉱山王」と呼ばれた古河財閥の創始者。

「古河市兵衛翁伝」

HULTON GETTY／オリオン・プレス

◀**ボーア戦争で英国が攻勢（2月）**金鉱発見以降の英国の内政干渉に対し、前年10月、南ア・トランスバールのオランダ系白人（ボーア人）が宣戦布告。英国は大兵力を派遣して支配権奪取をねらった。

▲**泉鏡花（26）、「高野聖」を発表（2月）**春陽堂の雑誌「新小説」で、魔性の美女が男を鳥獣に変えるという幻想的・浪漫的世界を展開。前期の代表作をみごとに仕上げ、師・尾崎紅葉を超える人気作家に。

▼**牧野富太郎（37）、「大日本植物志」を刊行（2月25日）**本格的な日本の植物誌をという東大総長・浜尾新の依頼にこたえ、初巻を世に出した。写真はこの年、東京・小石川植物園で。

▶**足尾鉱毒事件で強権（2月13日）**鉱毒被害を政府に訴えようと、むしろ旗を立てて押し出した農民3000人を、群馬県川俣（現・館林市）で数百人の警察官が襲撃。65人が逮捕された。写真は利根川を渡るために準備、大八車で運搬していた舟。

▲**新渡戸稲造、欧米視察へ（2月）**生涯の仕事とした東西思想の融合を実現すべく、国際人の素養を着々と磨いた。副題に「日本の魂」とある英文の著作『武士道』は、この年に刊行された。

◀**「たくぎん」創立（2月16日）**一府県一行をめざした農工銀行の成立が困難だったため、北海道拓殖銀行法を特に作り、政府保護監督下の特殊銀行とした。頭取には曽根荒助が就任。

北海道拓殖銀行提供

明治33年 2月

1（木）●大阪・東京に続き、横浜でも手形交換所開業。
2（金）●山田猪三郎、山田式気球の発明で特許取得。
3（土）●欧米諸国で、本年（一九〇〇年）は一九世紀か二〇世紀かの論議がさかん、と新聞に。
4（日）●大日本製薬、東京出張所を開設。
5（月）●米・英、第一次ヘイ=ポンスフォート条約調印。英のパナマ運河建設権放棄を規定。
6（火）●内務省が「窮民」救済制度の調査、と新聞に。
7（水）●東京・深川の友禅染工場で工員二八〇人が賃上げスト（賃金増額で平常に戻る）。
8（木）●農商務相、重要輸出品として漆の栽培を奨励。
9（金）●海軍に無線電信調査委員会を設置。
10（土）●シカゴで建設労組七〇〇〇人がスト。使用者側はロックアウトで対抗、争議が一年間続く。
11（日）●宮内省、皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）と九条節子の婚約を発表（5月10日挙式）。
12（月）●東京歯科医学校が開校（初の歯科専門校）。
13（火）●足尾銅山鉱毒被害民三〇〇〇人、請願のため上京途上に館林で警官隊に襲われ、多数負傷。
14（水）●前月、新潟市から東京へ出た芸妓・娼妓は一四人、その契約金は計三八三五円、と新聞に。
15（木）●東京・新橋の料理屋が、芸妓ら一六人をパリ万博に派遣、この日横浜を出帆。
16（金）●北海道拓殖銀行、創立総会を開催。
17（土）●田中正造、足尾鉱毒被害者救済建議案を衆院提出（20日可決、23日貴族院可決）。
18（日）●東京大相撲・牛が淵興行は、土間五〇銭、桟敷六〇銭と本場所並み料金だが好況と新聞に。
19（月）●日本の石油事業は、大資本欠如・交通不備などで全湧出量の八割がむだになる、と新聞に。
20（火）●羽二重価格下落で金沢の機業者ら休業決定。
21（水）●独・仏の海軍拡張から鋼鉄が騰貴、と新聞に。
22（木）●パリの日本人経営のホテルは一軒、全一五〇室で万博会場に近く日本食完備、と新聞に。
23（金）●函館の娼妓・坂井フク、大審院での廃業訴訟で勝訴。以後、娼妓の自由廃業が活発化。
24（土）●福沢諭吉、慶応義塾で特別講義、「独立自尊」など「新時代の修身要領」を発表。
25（日）●秋田の歩兵一七連隊で腸チフスが蔓延、入院患者八〇人余、うち三人死亡。
26（月）●産牛馬組合法公布。畜産団体への初の特別法。
27（火）●英、労働代表委員会結成（後の労働党）。初代書記長はマクドナルド。
28（水）●画家・浅井忠、仏留学のため神戸を出帆。

▲**人力車の発明者を表彰（3月）**明治29年に全国で21万台を超え、海外にも輸出されるほど。賞勲局はその功績をたたえ、和泉要助ら3人に各200円を授与。写真は人力車製造所。

◀**エバンズ、クノッソス王宮を発掘（3月23日）**英国の考古学者（上方白服）が、クレタ島に栄えたミノス文明の謎に挑戦。32年かけて王宮を再現するなど、その全容を解明。

▼**テアトル・フランセ火事（3月8日）**白昼、パリの伝統ある劇場から出火。恐怖が走ったが、幸い昼間興行前だったため、負傷者は少なかった。原因はガス爆発か漏電とされた。

Ashmolean Museum Oxford

▶**サラ・ベルナール（55）の人気衰えず（3月15日）**「黄金の声」とたたえられる仏の女優が、パリ劇場に出演。ロスタン書き下ろしの「鷲の子」に男装で主演、喝采を博した。

▼**神戸市に水道創設（3月24日）**奥平野浄水場（写真）で通水式。コレラ流行を機に英国人・バルトンに設計を依頼、3年ぶりに完成。翌月から市全域、25万人に給水した。

神戸市水道局提供

▲**小諸義塾教師の島崎藤村（3月）**前年に赴任。新妻・フユと信州の小諸町に新居をかまえた。28歳。この頃、散文の習作を試み『千曲川のスケッチ』を起稿。写真は、塾の卒業生と。後列左から3人目が藤村。

「イリュストラシオン」

明治33年 3月

1（木）●全国鉄道の総延長は、官設が約一三〇〇キロ、私設が約四五〇〇キロ、と新聞に。
2（金）●電灯会社の節約のせいで、東京市内の夜間の電灯が暗くなり苦情が増加、と新聞に。
3（土）●「時事新報」、一件二〇銭の個人広告欄開始。
4（日）●中国からの輸入大豆が年々増加、と新聞に。
5（月）●川端玉章門下の平福百穂ら、自然主義を標榜する无声会結成、上野で第一回展開催。
6（火）●平山信、小惑星を二つ発見（後、「東京」「日本」と命名。明治36年にも「ヒスパニア」を発見）。
7（水）●未成年者喫煙禁止法公布。未成年と知って販売すると一〇円以下の罰金（4月1日施行）。
8（木）●信州で機業者の蚕の自家飼育が増加と新聞に。
9（金）●近年、種痘を受ける人が減っていると新聞に。
10（土）●治安警察法公布。
11（日）●襟裳岬付近に巨大な流氷が出現、と新聞に。
12（月）●北海道に大雪、東京からの郵便ストップ。
13（火）●郵便法公布。郵便業務の政府専掌を明確化。
14（水）●米国で通貨法公布、正式に金本位制確立。
15（木）●東京―伊豆七島間に定期航路が開かれる。
16（金）●私設鉄道法公布。鉄道新設に必要な起業目論見書・敷設費用概算書などを規定。
17（土）●日本漆工会、創立一〇周年祝賀式を開催。
18（日）●日本酒の防腐剤に劇薬の昇汞を使用する例が発見され、当局が調査中、と新聞に。
19（月）●移民者の指導・保護めざす初の民間組織・海外移民保護協会が東京に発足、と新聞に。
20（火）●新潟で「百両金」という富籤が流行、ある軍人は六〇銭で四七〇円取得、と新聞に。
21（水）●小田原電鉄、国府津―湯本間に電気鉄道開業。
22（木）●保険業法公布。生命・損害両保険の兼業禁止。
23（金）●英考古学者・エバンズ、クレタ島・クノッソス王宮の発掘開始（三二年かけ再現修復成功）。
24（土）●厳冬で天然氷の生産多く、東京への入荷が一万五〇〇〇トン、前年の倍、と新聞に。
25（日）●三重銀行（三重県）が開業。
26（月）●文部省、学生生徒定期身体検査規程を制定。
27（火）●三菱佐渡鉱山で待遇改善スト（一カ月間続く）。
28（水）●農商務省、英から種馬九頭を輸入と新聞に。
29（木）●衆議院議員選挙法を改正公布。有権者に必要な納税額を一五円から一〇円に引き下げなど。
30（金）●岡山市に第六高等学校設立（大学予科のみ）。
31（土）●仏、労働時間制限法を制定。女子と児童の労働時間を一日一一時間とする。

森永製菓提供

◀森永製菓、本格スタート(4月11日)米国で11年間修業し、洋菓子技術を習得した森永太一郎(右端)が、当時は珍しい英字看板を掲げて東京・赤坂の表通りに進出。

毎日新聞社

▲千葉高女、開校(4月1日)前年公布の高等女学校令に基づき、千葉市に女子中等教育機関が誕生。4年制。「貞淑の徳」が強調された。写真は第1回生の料理作法実習。

▶「信濃丸」完成(4月)日本郵船所有。欧州・北米航路に就航。6388総トン。日露戦争時、仮装巡洋艦として哨戒任務につき、バルチック艦隊発見を「敵艦見ゆ」と打電、後世に名を残した。

日本郵船歴史資料館提供

▶久根鉱山古河鉱業所、開業(4月5日)煙害問題で業務停止となっていた静岡県佐久間町の銅山を、「鉱山王」と言われた足尾銅山創業者・古河市兵衛が買収。近代的採鉱技術を導入して繁栄に導いた。

▶山陽鉄道に寝台車登場(4月8日)1等車1両を食堂車と半分ずつ使用した。定員は16人。料金は一人2円。この頃の川柳に「寝台車のぞくまいぞえ目がはれる」とあり、豪華だった。

◀ジェフリーズ、23回KO(5月11日)ボクシング世界ヘビー級王座を初防衛。老練のコルベットが接近戦を挑んできた瞬間の、右ストレートだった。

明治33年4月

1(日)●三菱造船所、政府経営時代からの慣例を廃止し、一日九時間労働制を一〇時間制に変更。
2(月)●明治二〇年以来、物価が二倍に、と新聞に。
3(火)●与謝野鉄幹ら、詩歌中心の文芸誌「明星」創刊(明治41年、一〇〇号で廃刊)。
4(水)●日本鉄道の労働組合員一三〇〇人、待遇改善スト(要求はほぼ通るが、二八人解雇)。
5(木)●長崎で独兵が巡査に暴行し捕まる、と新聞に。
6(金)●税関仮置場法公布。輸入品陸揚地を国が指定。
7(土)●内務省、牛乳営業取締規則を公布。牛乳の比重・脂肪量を定め、ガラス瓶を義務化。
8(日)●山陽鉄道、日本で初めて寝台車(一等)の営業を開始(10月1日、東海道線でも開始)。
9(月)●枢密院が諮問事項を拡大。政府が発する多くの勅令で、枢密院の審査が必要となる。
10(火)●新聞記者らの団体、全国同盟記者倶楽部発会。
11(水)●伝染病研究所がペスト血清を国産化と新聞に。
12(木)●横浜生糸相場暴落、一〇〇〇円台を割る。
13(金)●富士山麓の洞窟「御胎内」一般公開、と新聞に。
14(土)●パリ万国博開幕(~11月12日)。
15(日)●ニューヨークの賃上げストで、軍隊が出動。
16(月)●文部省に国語調査会新設(委員長・前島密)。
17(火)●カナダのブリティッシュ・コロンビア州、日本人排斥法を制定(24日、カナダ総督は不認可)。
18(水)●三菱、佐渡鉱山で請負制を廃し飯場制を採用。
19(木)●領事館職務規則公布。邦人の利益保護を規定。
20(金)●福井市で大火、一七〇〇戸焼失・七人焼死。
21(土)●違法周旋人による渡米者が増加、と新聞に。
22(日)●木曽・長良・揖斐の三川分流工事完成式、岐阜県海津郡で挙行。山県有朋首相が出席。
23(月)●警察官の親睦をめざす警察協会創立。
24(火)●ウィーンで労働者数千人が社会情勢悪化に抗議して街頭デモ。警察の介入で混乱起きる。
25(水)●皇室婚嫁令を制定。大婚の礼は天皇満十七歳以降に行う、など皇族の結婚に関する二六条。
26(木)●警視庁、富籤類に関する取締規則発布。商品に添える景品などは条件つきで許可。
27(金)●内務省、社寺局を廃止し神社局・宗教局を設置。神社事務尊重のため一般宗教行政と区別。
28(土)●台湾で一般外国郵便為替の取扱い開始。
29(日)●「二六新報」、三井財閥の乱脈を批判する記事を掲載開始(6月末まで継続)。
30(月)●「軍艦マーチ」、神戸沖の観艦式で初演奏。
●ハワイ共和国が米国の準州となる。

「太陽」

◀皇太子嘉仁親王(20)、結婚(5月10日)妃宮は旧摂家九条道孝3女・節子(後の貞明皇后)。宮城賢所で婚儀を行い、群衆の歓呼と万歳の中、4頭立ての馬車に乗り、長い行列をつらねて東京・青山の東宮御所へ向かった。

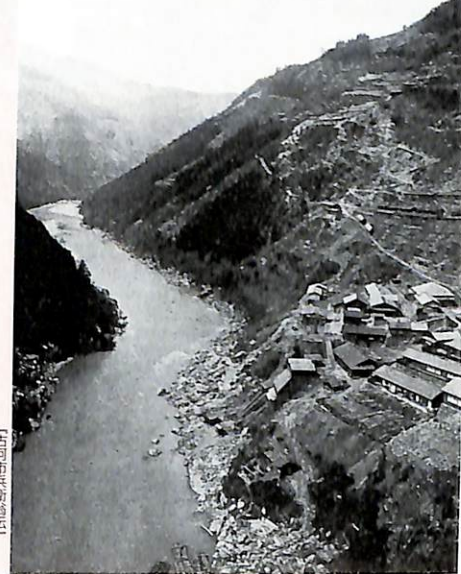
証言・あの日この日
尾崎三良(58)

2月8日(木)〈晴　午前十時貴族院出席。韓国京釜鉄道速成ニ関スル建議案ヲ通過ス(谷干城ノ反対演舌長キニモ係ハラズ、大多数ヲ以テ通過ス)。午後ハ談話室ニテ衆議院撰挙法改正委員会ニ出席。三時四十分貴族院退席。直ニ法典会ニ赴ク〉(尾崎三良『尾崎三良日記』)

公卿・三条実美につかえていた尾崎三良は、明治元年、実美の世子・公恭の従者としてイギリスへ渡る。オックスフォード大学で法律を学び、帰国後は新政府官僚として法律の整備・改良に活躍。後に貴族院議員、男爵となるが、この頃は、もっぱら鉄道や炭鉱の開発事業に関心を寄せ、特に「韓国京釜鉄道」の建設事業の立案に奔走する。この年、京釜鉄道創立委員会が正式に設立され、渋沢栄一が会長、尾崎が常務委員に選ばれる。そしてこの日、建議案が貴族院を通過する。　(山崎行太郎)

「イリュストラシオン」

▲皆既日食を観察(5月28日)メキシコ、ポルトガル、スペイン、アルジェリアなどで見られた。写真は、マドリード南方のアルガマシリャに、カメラや各種観測機を組みこんだ大がかりな赤道儀を持ちこんだフランス隊。

▼夏目漱石(33)、英国留学へ(5月)文部省が、熊本の第五高等学校教授だった漱石(前列左)に2年の英語研究を命令。写真は上京を前に学生と。9月、横浜を出発。

▶山陰線着工(5月)当初、鳥取から姫路に抜ける陰陽連絡鉄道として境港を起点に着工。資材は海路、境港に陸揚げされた。途中、計画を変更し、昭和8年、京都－下関・幡生駅間が全通。

▼日本体育会の新体操場が落成(5月6日)東京・九段坂に事務所、各種競技場を新築。櫓山文相臨席のもと、祝典を催した。同会は明治24年創立、日本体育大学の源流となった。

「風俗画報」

毎日新聞社

明治33年5月

1(火)●東京電気鉄道、設立(後の東京市電の一部)。
2(水)●東京・下谷の人力車総数三〇五五、と新聞に。
3(木)●坪井正五郎らの言文一致会、手紙の敬称を~サマ・サン・ドンに限る案発表、と新聞に。
4(金)●欧州へ行くには、常に超満員の汽船より新交通路・シベリア鉄道が便利、と新聞に。
5(土)●パリで日本美術館の開館式。二万人が来会。
6(日)●東京・九段に日本体育会の新体操場が完成。
7(月)●サンフランシスコ労働協会の集会、中国人移民排斥法の日本人への拡大適用を決議。
8(火)●愛媛県西部の竹ケ島に、どこからか数万匹のネズミが上陸、島民に飢餓の不安、と新聞に。
9(水)●渋沢栄一に男爵授与。財界では岩崎弥之助・岩崎久弥・三井高棟に続き四人目。
10(木)●『地理教育鉄道唱歌第一集(汽笛一声新橋を……)』刊行。作詞は国文学者・大和田建樹。
11(金)●警視庁、狂犬病対策で畜犬の口網励行を告諭。
12(土)●山川均、皇太子の結婚を非難し逮捕される。
13(日)●スペイン主要都市で反税運動起こる。
14(月)●仏下院、公務員に団結権を与える法案を否決。
15(火)●住友銀行東京支店が開業(住友初の東京進出)。
16(水)●明治屋が銀座二丁目に支店完成、と新聞に。
17(木)●高知で海南平民党結成。藩閥政党反対掲げる。
18(金)●群馬県桐生の三織物買継商が支払い停止。足利にも破産が生じ、同地方の織物業界が混乱。
19(土)●陸海軍官制を改正し、軍部大臣を現役の大・中将に限定。軍部の内閣支配が強まる。
20(日)●東郷平八郎を常備艦隊司令長官に任命。
21(月)●全国商業会議所連合会、国庫制度の改正・貿易機関の完備など経済界救済策を協議。
22(火)●東京湾築港案、住民の反対で見直しと新聞に。
23(水)●金沢電気辰巳発電所、完成(出力二四〇キロワット)。
24(木)●内務省、男女混浴禁止を一二歳以上と明確化。
25(金)●黒田清輝、文部省の命で美術に関する制度など調査のため仏に出発(翌年5月帰国)。
26(土)●東京・八王子の小学生と父兄が相撲に熱中、学校を休み数千円を費して興行したと新聞に。
27(日)●東京で牛乳店の得意客争い激化、本所では店主同士の喧嘩で相手に重傷負わす、と新聞に。
28(月)●ポルトガルなどで皆既日食。
29(火)●閣議、義和団事件で、清国への軍艦派遣決定。
30(水)●シカゴに開店の日本茶喫茶店が好評と新聞に。
31(木)●東京市、住民各家のゴミ箱の標準形を告示。木製・蓋つき・外面ペンキ塗りなど。

金光教本部提供

◀**金光教、神道本局より独立(6月16日)**江戸末期の開教以来、徹底した人間平等観を掲げたが、ついに国家神道体制に従い、教派神道として政府から独立を認められた。写真は、岡山県金光町の本部。

▼**電化進む鉱山(6月)** 19世紀末頃から発電所が建設され、坑道内、工場間などで、電気機関車が牽引する鉱車が走るようになった。写真はこの頃、日本を代表する銅・銀山だった秋田県小坂鉱山。

▶**病院船、中国へ(6月)**「義和団事件」が始まると、日本赤十字社が陸・海軍大臣に、傷病兵などの輸送事業を出願。翌月、「博愛丸」(写真)と「弘済丸」が、看護婦・看護人を乗せ、大沽港に向かった。

毎日新聞社

立命館大学提供

▲**立命館大学の前身、うぶ声(6月)**京都法政学校が、料亭・清輝楼(現・大和屋)で開校。かつての西園寺公望の私塾・立命館の精神を継承、勤労学生を前に京大教授陣が講義。

「イリュストラシオン」

◀**ニューヨーク港で火災(6月30日)**午後4時頃、桟橋から出火。近くに係留していた船の綿花、ウイスキーの樽などに次々引火し、3隻を全焼。300人以上の死傷者を出した。写真は被災した「ブルメン号」。

吉澤野球史料保存館提供

▶**一高、横浜外人チームに大勝(6月2日)**横浜公園で3年ぶりに米国人クラブと戦い、14対7。中列右から二人目がエース・守山恒太郎。練習後300球の投球をみずから課し、煉瓦塀に穴を開けた逸話を残す。

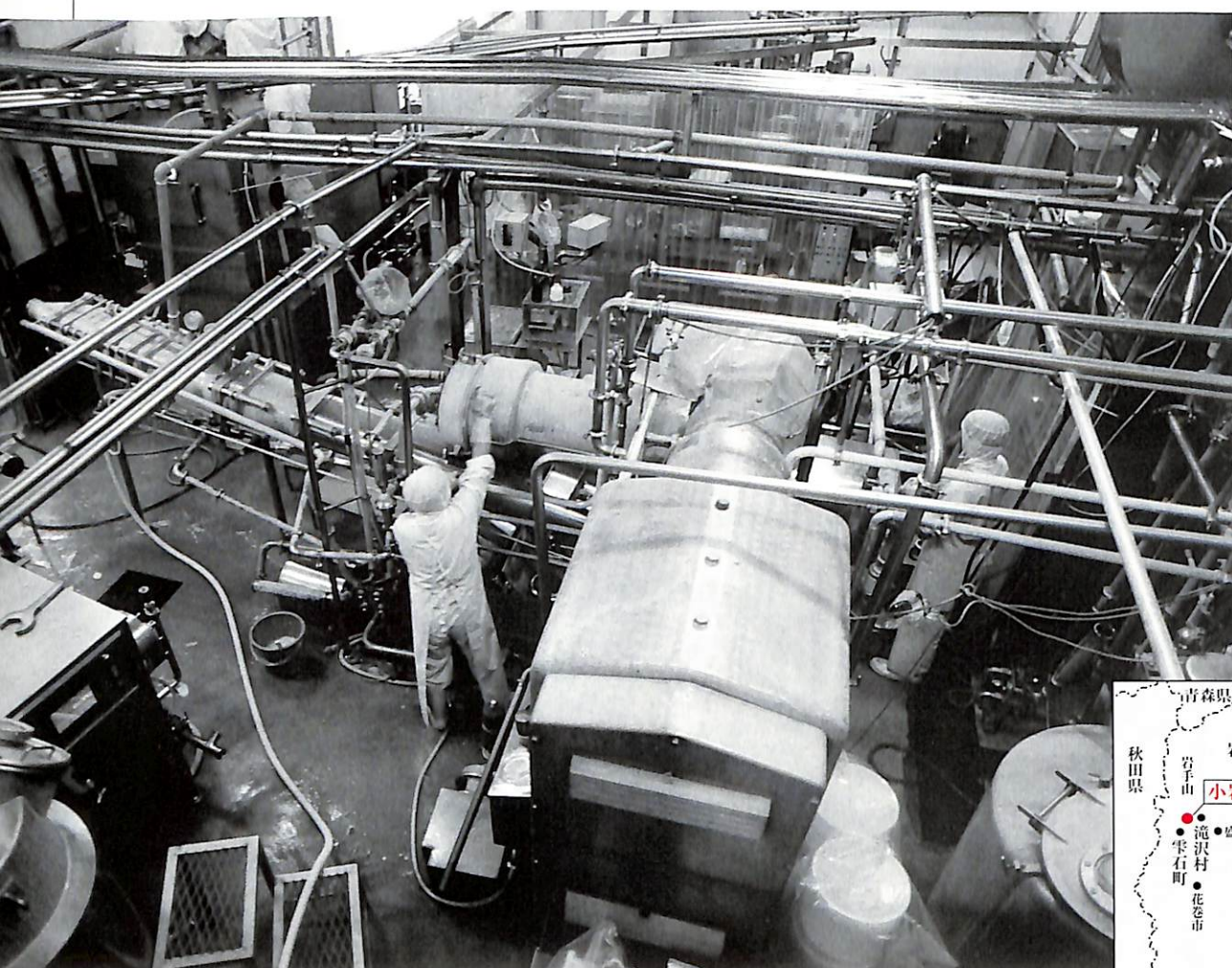
明治33年6月

1(金)●山形市と白岩村への電力供給をめざし、両羽電気紡績が開業。
2(土)●行政執行法公布。緊急時の行政権限ほか規定。
3(日)●仏人・ボージェ、オートバイで時速六三・七九キロのスピード世界新を記録。
4(月)●外国旅券規則制定。書面の記載事項を定める。
5(火)●内務省、清涼飲料水営業取締規則を公布。対象はラムネ、ソーダ水などの炭酸含有飲料。
6(水)●仏教各宗派会議を京都で開催。東・西本願寺法主代理ら四〇人、帝国仏教会組織化を協議。
7(木)●北海道・日高で砂金発見、と新聞に。
8(金)●北海道炭鉱鉄道会社は、営業の主力を石炭から鉄道に切り替える、と新聞に。
9(土)●東京・回向院で、米人が自転車曲乗りを興行。
10(日)●義和団、北京―天津間の交通・通信を遮断。北京の各国代表団が孤立する。
11(月)●北京の日本公使館員・杉山彬、永定門外で清国兵に殺害される。
12(火)●独、世界二位の海軍編成めざし、艦隊法可決。
13(水)●米国移民二〇人余が送還され、横浜港帰着。
14(木)●パリ―リヨン間で初の国際自動車レース。四カ国が参加、仏車が時速六一・六キロで優勝。
15(金)●閣議、清国への陸軍部隊派遣を決定。
16(土)●金光教が神道本局から独立、民間宗教に。
17(日)●高村光雲ら四〇〇人、東京で美術保護策協議。
18(月)●納所弁次郎ら編の『幼年唱歌』初編上巻刊行。「モモタロウ」など言文一致唱歌の始まり。
19(火)●新橋駅で便所を鉄板張りに改造中、と新聞に。
20(水)●義和団が北京の各国公使館を包囲(21日、清国が出兵した八カ国に宣戦布告。義和団事件)。
21(木)●警視庁、新道路取締規則を制定、左側通行採用。
22(金)●日本赤十字社が義和団事件に関連し、病院船の準備を始めた、と新聞に。
23(土)●東京の下谷商業銀行が支払停止(東都銀行・両国銀行など小銀行の破産が相次ぐ)。
24(日)●露、統治下のフィンランドに露語公用化命令。
25(月)●スタンフォード大学長が来日、水産施設見学。
26(火)●宮内省、東京・奈良・京都の帝国博物館を帝室博物館と改称(後の国立博物館)。
27(水)●富山県高岡市で大火、三六〇〇戸焼失。
28(木)●新聞紙上で乱脈を指摘された三井家が新家憲制定。義務・制裁ほか全一〇則を定める。
29(金)●農商務省に臨時油田調査員をおく件公布。
30(土)●八カ国連合軍一万五〇〇〇人が天津総攻撃。

「現場」を歩く 雫石

日本で初めて製造された小岩井農場「発酵」バターの一世紀

山本徹美

▲小岩井工場のバター製造室。写真中央に見える連続式バター製造機にクリームを送りこむと、短時間で「発酵」バターができる仕組み。 但馬一憲

明治三三年三月、岩手県雫石村(現・雫石町)にある小岩井農場で、わが国初の「発酵」バターが製造された。

国産バターが登場したのは明治七年。だが、それは乳脂肪に塩分を加えた「甘性」バター。バター製造は牛乳をクリームと脱脂乳に分離するところから始まる。欧米では、殺菌したクリームに乳酸菌を添加して発酵させ、その香りをバターに反映させるのが一般的である。

文明開化と欧化政策により、牛肉は「スキヤキ」の形態ですぐさま広まったが、乳製品はなかなか定着しなかった。

風味にとぼしく塩辛いだけのバターではなく、もっと美味なものを作りたい。そのためには発酵が重要と考えた前田辰雄主任など小岩井農場のスタッフ三人は、「スターター」と呼ばれる乳酸菌培養液の開発につとめる。約一年間の試行錯誤の結果、ようやく自然発酵に成功した。

発酵バターの量産化には、さらに二年を要した。同三五年一二月、保健所の認可を受け出荷した発酵バターは一三六八キロ。消費者の反応はよく販売量は順調にふえ、翌年は二トン台へ。同三八年、歌舞伎座での芝居「食道楽」で、「日本一の小岩井バタ」と紹介され、六トン台に急伸した。

人と自然が作る奇跡

小岩井農場を訪ねてみた。JR盛岡駅から西北へ約一二キロ。工場も民家も視界から消え、広大な牧場が出現する。空気がうまい。総面積三〇〇〇ヘクタール。道路脇や牧柵の周辺には、杉や松の巨木が並ぶ。

「立木はほとんどが植林によるものです。ここは火山灰土壌で、開墾が始まる前は、灌木さえまばらな原野だったそうです」(小岩井農牧・鎌田徹課長代理)

明治二一年、この荒れ地を視察した鉄道局長官・井上勝は「美田を鉄道のために潰した埋め合わせにこの荒蕪地を良圃に」と発案、岩崎弥之助(三菱社長)と小野義真(日本鉄道会社副社長)に相談し、三人の頭文字をとって小岩井農場が創設された(同二四年)。明治三二年、岩崎久彌が場主を継承、オランダから乳牛用のホルスタイン種を輸入するなど牧畜主体の運営を展開する。

農場の管理運営は昭和一三年、小岩井農牧(株)となる。昭和五一年、キリンビールと折半出資で小岩井乳業が設立され、バター製造部門は同社が担当している。平成九年度のバター生産量は八二五トン。河本喬副工場長の案内で農場敷地内にあるバター製造室を見学した。

「一九〇〇年以来一貫して発酵バターを製造しているのは当社のみ。芳醇さでは比類なしと自負しています」(河本氏)

宮澤賢治作『春と修羅』の一節。「すみやかなすみやかな万法流転のなかに小岩井のきれいな野原や牧場の標本がいかにも確かに継起するといふことがどんなに新鮮な奇蹟だらう」

一世紀を経ても変わらない味は、人と自然の共作によって生まれるのだと思う。

▲明治34年当時の従業員とバター製造器具。同農場に現存する、最古の写真である。 小岩井農場提供

ベストセラー

新聞連載、単行本、舞台と『金色夜叉』が大ヒット！

明治三〇年の「読売新聞」連載開始時から、巷間の話題となっていた尾崎紅葉の「金色夜叉」は、翌年にはすでに単行本となって、その前編が刊行されていたが、明治三二年の中編に続いて、この年の初めに後編が刊行され、人気は高くなる一方だった。貫一・お宮を主人公に、色と欲をからませて繰り広げられた物語には、読者の感情に直接的に訴えるところがあり、登場人物に対する同情や共感、反発などを呼んで、大ベストセラーとなった。写真のような紙袋に包まれた本で、大きい文字を読みやすく組むなど、デザインにも工夫を凝らしてあった。なお、この年には川上音二郎一座も上演してヒットさせるなど、「金色夜叉」は舞台の方でも評判を呼んだ。

同じ年に、尾崎紅葉の愛弟子としても知られる泉鏡花は、みずからの幼少時代を彷彿とさせる抒情的な名作『照葉狂言』を上梓した。照葉とは、主人公の少年・貢の住む城下町にやって来た能狂言一座の名。貢は子どもながらも毎日のようにその小屋にかよい、美しい女座主の小親にかわいがられるのだが、近所の娘・お雪もまた、両親を亡くした貢に、こまやかな愛をそそぐ。「山の端に歩み出でつ。唯見れば明星、松の枝長くさす、北の天にきらめきて、また、き、また、き、また、きたる後、拭うて取るやう白くなりて……」といった流麗な文体が、この物語の情感を深めた。美しい色刷りの口絵も作品の雰囲気をよく表していた。

またこの年、すでに子どもの読み物の世界に新風を吹きこんでいた巌谷小波を主宰とした、月刊誌「幼年世界」が新年号から創刊された。小波自身は「十二支物語」という創作童話の連載を始めたほか、「諸国お伽噺」や、歴史小話と称して「日吉丸」を書くなど、八面六臂の大活躍だった。なお、新年大付録として、梶田半古のカラーイラスト「日吉丸誕生の図」が折りこまれており、子どもたちの夢をかきたてたのである。

▲『金色夜叉』（春陽堂、前編60銭、中・後編各40銭）

◀『照葉狂言』（春陽堂、35銭）

▲「幼年世界」（博文館、5銭）

日本近代文学館提供（三点とも）

スターと名場面

“動く写真”映画が日本登場 団菊の名演「紅葉狩」撮影！

この頃、エンターテインメントの世界を大きく変えようとする出来事があった。ひとつは映画という新しいメディアが輸入されたことである。スクリーンに映し出される“動く写真”は、刺激的であり、人々をひきつけるのに十分な魅力を持っていた。映画の開祖と目されるフランスのリュミエール兄弟と留学中に知り合った稲畑勝太郎が、映写機などを持って帰国したのは明治三〇年のこと。その前後から、映画は一九世紀と二〇世紀とを橋渡しするメディアとなった。

映画が、強力なエンターテインメントとなる可能性を秘めていたことは、九代目市川団十郎と五代目尾上菊五郎の名演で大好評だった歌舞伎「紅葉狩」を、まがりなりにも撮影できたところからもうかがえる。上映については、二人が存命中は公開しないという約束があったと伝えられているが、明治三三年の一一月には非公開ながら団十郎の家で映写され、名優たちを驚かせた。

また、その歌舞伎に代わる新しい舞台の試みが公然と行われるようになったのも、この頃のことである。前年秋には、泉鏡花の「通夜物語」を美貌の女形・河合武雄が大阪・朝日座で上演した。新派のはしりである。やがて河合武雄は伊井蓉峰、喜多村緑郎とともに新派三頭目と称されるようになった。

▲映画に撮影された歌舞伎の「紅葉狩」

▲稲畑勝太郎とその家族も映像になった。撮影したのは、稲畑が連れてきたフランス人のジュレール。

◀「通夜物語」で美しい女形ぶりを見せる河合武雄（左）。

早稲田大学演劇博物館提供

モノ語り'00

国産品も徐々に品質向上！ 懐中時計「タイムキーパー」、髪油「花かつら」や「花王石鹸」

▶**公衆電話が町でかけられる！** この年9月1日、東京・上野、新橋の両駅構内に「自働電話」が設置され、10月には、最初の屋外用公衆電話ボックスが京橋に建てられた。それまで電信局・電話局内にしかなかった公衆電話が、街頭に進出したのである。5銭と10銭の硬貨投入口があり、料金を入れると、5銭は「チーン」という音、10銭は「ボーン」という音で、投入料金を交換取扱者に知らせた。なお、「公衆電話」の呼称は、大正14年から用いられるようになったものである。

逓信総合博物館提供

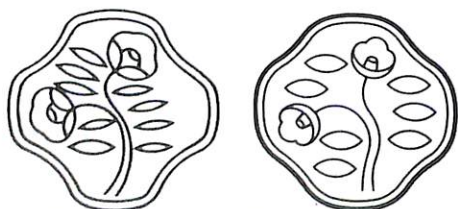
◀**洋風化が髪の油にも** 20世紀が近づくにつれ、女性の髪形も洋風に髪をたばねる“束髪”スタイルが広まっていた。明治31年に資生堂から発売された「改良水油　花かつら」は、その束髪に対応できる髪油として評判となり、この年にはすっかり人気商品となった。椿油をおもな原料としており、髪に粘りや汚臭をもたらさないところに特長があった。

▼**高品質の石鹸が登場** 明治23年に長瀬商店（現・花王）から発売された「花王石鹸」が、この年12月の歳暮売り出し以降、その色をグレーから銀朱（オレンジ・バーミリオン）に変え、“花王色”として親しまれるようになった。洗顔用石鹸としての高品質をポイントにするブランドで、石鹸に型押しをほどこすなど（写真下が型）高級感があった。

▶**時計産業が本格的になった** 日清戦争を契機として技術革新が一段と進んだが、時計の世界でも、明治28年には精工舎（現・セイコー）が、同社初の懐中時計、22型「タイムキーパー」の製造を開始し、この年までにはさらに改良を進めていた。スイス製の懐中時計をモデルに開発されたこのタイムキーパーは、シリンダー脱進機を備え、指針は竜頭左のタボを押してまわすという仕組みのものだった。

セイコー時計資料館蔵／田代真一

「花椿」は「花かつら」から

資生堂のシンボルである「花椿」マークは、大正4年に生まれているが、もとをたどると、この頃評判になっていた「花かつら」に行き着く。髪油の「花かつら」が椿油をおもな原料として作られていたため、明治40年に「花椿」と改名され、資生堂の看板商品となった。そして、この商品名から、あの有名な「花椿」マークが作られたのである。

▲上図左が大正5年の「花椿」マーク。右が昭和49年に作られ、現在も使われているもの。

▼**まだまだ不安定だった電球の灯** 明治10年代に登場した白熱電球だが、フィラメントにタングステンが用いられるようになるまでは、改良を重ねなければならない状態だった。白熱舎（現・東芝）がこの頃製造していた炭素電球も、その明るさは抜群だったものの、大正年間にはその安定度からタングステン電球に完全に駆逐される。

東芝科学館蔵／小森谷信治

▶**夢の日常薬が評判に** 応用化学者・高峰譲吉博士が開発し、明治32年に三共商店（現・三共）が発売した消化酵素剤「タカヂアスターゼ」が、この年には大いに評判となっていた。消化酵素、ジアスターゼを薬剤にしたもの。高峰博士は、このほかにも、アドレナリンの結晶を抽出したことなどで知られる世界的な学者で、明治34年にはニューヨークに高峰研究所を創設した。

人物クローズアップ

徳冨蘆花（三三）

新聞連載中から大評判！民友社から『不如帰』刊行

明治三三年一月一五日、徳冨蘆花（三一）の小説『不如帰』が、民友社から単行本として出版された。本の売れ行きは発売当初からめざましく、この年だけで八版を重ねて九〇〇〇部を完売。さらに翌年からは毎年一万部以上が売れ、明治四二年三月には、明治の小説では初の一〇〇版を刊行するという大ベストセラーになった。

この小説は、明治三一年一一月二九日から「国民新聞」に連載された蘆花の出世作である。小説の評判は、年が明けてからすさまじいものになった。人々は「国民新聞」を競って買い求め、そのため同紙は飛躍的な売り上げを記録した。連載は翌三二年五月二四日に終わったが、反響はそのまま余韻となって残り、そしてこの年、単行本として出版されることになったのである。

物語は、海軍士官の川島武男に嫁したヒロインの浪子が、肺を病んだことから、武男が海外に出ている間に姑から離縁され、浪子は武男を慕いながら死んでいくという内容。個人の幸福よりも家の存続を重視する当時の家制度の中で、互いの愛情を貫こうと身もだえ苦悩する二人と、特に、死の床にありながらも愛と生きることへの意欲を失わない浪子の姿に、人人は深い同情を寄せ、涙した。そしてこの小説が、陸軍元帥・大山巌の娘・信子の家庭に取材したものであることが明らかになるにつれ、『不如帰』は一層評判となっていったのである。

徳冨蘆花は、明治元年一〇月二五日、肥後国葦北郡水俣（現・熊本県水俣市）に父・一敬、母・久子の次男として生まれた。本名は健次郎。五歳上の兄が蘇峰こと猪一郎である。

明治一一年、兄・猪一郎にともなわれて京都に出、三年前に開校した同志社に入学。一三年にいったん退学したが、一八年にキリスト教の洗礼を受けた後、一九年に再入学。しかし、恋愛事件を起こして再び退学した。

明治二二年、兄が経営する民友社に入り、翌年同社から創刊された「国民新聞」や「国民之友」に翻訳や雑文を書いた。しかし、徐々に創作もふえ、三一年に「国民新聞」に発表した「此頃の富士の曙」で一躍名前が知られるようになり、同年三月には、最初の文芸集『青山白雲』を民友社から刊行。そして「不如帰」の連載がその後に続いていくのである。

文芸評論家の紅野敏郎氏は、『不如帰』がこの時代の人々をとらえた理由を、次のように述べる。

「読者の多くは女性たちで、いわば当時の社会状況を最も反映した人たちと言っていいでしょう。小説のテーマである家制度と個人の幸福の関係は、彼女たちにとっても切実な問題でした。また主人公の浪子が、当時、不治の病とされた肺結核にかかり、夫を愛しながら死んでいくというのは悲惨であり、同情を禁じえなかったのでしょう。しかも、小説が伊香保への新婚旅行から始まるのも、読者の憧れをくすぐるのには十分で、こうした通俗的とも言えるいろいろな要素が、この小説をベトスセラーにしたのだと思います」

蘆花の創作活動はこの頃が最盛期で、「灰燼」「おもひ出の記」をたてつづけに発表、さらに『自然と人生』を刊行して明治文壇における地位を確立した。

蘆花は晩年、東京府千歳村粕谷（現・世田谷区）の自宅で、終日、自然とともに暮らす日々をすごした。没年月日は昭和二年九月一八日。静養先の伊香保温泉千明仁泉亭で、五八年の生涯の幕を閉じたのである。

◀明治三三年一月、民友社から刊行された『不如帰』。多くの読者を得たが、家庭小説として社会小説的な要素もあった。その根底には

▶明治二七年五月、父から財産の分与を受け、尋常高等小学校訓導の原田愛子と結婚、新生活に入った。

▲徳冨蘆花は、兄·猪一郎（蘇峰）の陰にあって、屈従の青年期を送るが、『不如帰』『自然と人生』の好評によって、作家の地位を確立、生活的にも自立する。 徳冨蘆花記念館提供（3点とも）

決定的瞬間

南アでゴールドラッシュ！ 世界最大級の金鉱をねらい英国、第二次ボーア戦争に

◀1886年、現在のヨハネスバーグの西方、ウィットウォーターズランドで世界最大級の金鉱脈が発見された。写真は同地での採掘風景。

Historical Papers,University of the Witwatersrand／デジタルハウス（2点とも）

一八四〇年代にアメリカで起こったゴールドラッシュの舞台は、一九世紀末になると、別の地域に移っていた。そのひとつはアラスカのフェアバンクスやノーム付近、カナダのブリティッシュ・コロンビアのフレーザー川流域やアラスカと国境を接するユーコン・テリトリーのクロンダイク地方などだった。

そして、もうひとつのゴールドラッシュの舞台が、現在の南アフリカ、かつてボーア人が建国したトランスバール共和国である。

一八八六年、同国のウィットウォーターズランドで莫大な埋蔵量の金鉱脈が発見されたのが、この国のゴールドラッシュの始まりだった。一攫千金を夢見る多数の人々が同国内に流入。金鉱に近いヨハネスバーグの町はたちまちのうちに、カイロに次ぐアフリカ有数の大都市へと発展した。

内陸国・トランスバール共和国は当時、港を持たないことから経済的にゆき詰まっていたが、金鉱発見により状況は一変。一躍、世界の注目を集める国となった。

オランダがナポレオン率いるフランスに併合されたのをきっかけに、イギリスは一八一〇年に、アフリカ南端のケープ植民地を奪取。この地を基盤に勢力を伸張させようとしていた。そこに立ちはだかったのが、かつてのオランダ人植民者の子孫・ボーア人だった。イギリスは、奴隷農業を基盤としていた彼らの経済基盤に打撃を与えるため、奴隷廃止宣言を発布。これに対して、ボーア人たちはイギリスの支配を逃れて、南アフリカ奥地にトランスバール共和国とオレンジ自由国を建国した。

一八五〇年代に入り、イギリスとボーア人の和解が進み、イギリス政府は両国を承認。共存の道が開かれるかに見えた。しかし、このつかの間の平和を破るきっかけを作ったのは、オレンジ自由国の西境のキンバリーに有望なダイヤモンド鉱山が発見されたことだった。

イギリスはこの利権を欲して、ダイヤモンドの埋蔵地帯を強引に自国領とし、さらに、一八七七年にトランスバール共和国の併呑を画策するにおよんで両者の対立は決定的になる。この結果、勃発したのが第一次ボーア戦争（一八八〇～八一）である。戦いはボーア人の勝利に終わり、一応、両国の独立は守られた。

しかし、再び戦火が起こる。第二次ボーア戦争である。その要因が、ウィットウォーターズランドで発見された大金鉱だった。金鉱発見により、人々は同地区になだれこんだ。その大部分が、ケープ植民地からやって来た「アイトランダース」と呼ばれたイギリス人である。

イギリスは第一次ボーア戦争後、トランスバール共和国を独立国として認めた。しかし、金の利権を得るため、再び同国を併合するたくらみを開始したのである。その中心人物が、キンバリーのダイヤモンド鉱山の利権で産をなしたセシル・J・ローズだった。

ローズは、まずトランスバールに流入したイギリス人に市民権を獲得させて、その政治を、イギリス系住民の手に奪い取ることを画策。次いでクーデターを試みたが、相次いで失敗。ローズは、その責任をとってケープ植民地の首相を辞任する。しかし、イギリスの植民地相、ジョセフ・チェンバレンは併合をあきらめず、「アイトランダース」の権利保護を口実に、再び露骨な内政干渉を開始して圧力を加えた。一方、トランスバールはオレンジ自由国と軍事同盟を結び、一八九九年一〇月、両国はイギリスに宣戦を布告、第二次ボーア戦争となった。

結局、イギリスは、四五万人にもおよぶ大兵力でボーア軍を圧倒。一九〇〇年三月にはオレンジ自由国を、そして同年五月三一日にはトランスバール共和国の首都・ヨハネスバーグを占領。世界の民衆の同情がボーア人側に集まる中、一九〇二年イギリスは勝利をおさめ、両国を併合した。こうしてイギリスは、ダイヤモンドとともに世界有数の金鉱を奪取するにいたったのである。

▲金鉱で働く人たち。未熟練労働はアフリカ人、熟練労働は白人労働者が担当した。

美の出会い

日本画家として初の渡欧 竹内栖鳳が目を奪われたコロー、ターナーの風景画

▲コロー「朝、ニンフの踊り」。1850年頃。油彩、98×131センチ。ルーブル美術館蔵。光の微妙な変化を、軽快な筆致で描いている。コローの光の描写にひかれた栖鳳は、この光を日本画表現に取り入れていった。

日本画家としてすでに名をなしていた京都府画学校の教諭・竹内棲鳳（三五＝後に栖鳳に改名）が、農商務省と京都市から「パリ万国博覧会」視察を命じられ、日本郵船の「丹波丸」に乗り、神戸港から出発した。明治三三年八月一日のことである。

日本画家とはいえ、イギリスの美術批評家・ラスキンの『近代画家論』を翻訳してもらうなど、西洋美術への関心を膨らませていた棲鳳にとって、この機会は西洋美術を実見するまたとないチャンスだった。事実この渡欧で、〝京都画壇の棲鳳〟から、〝日本の栖鳳〟へと大きく飛躍する貴重な体験を積むことになる。また、「棲鳳」から「栖鳳」への改名も、この渡欧を境にしてなされたのである。

一ヵ月半もの船旅を経て、九月一七日、棲鳳はフランスのマルセイユ港に到着した。当時のパリには、すでに洋画家の黒田清輝（三四）、小山正太郎（四三）、浅井忠（四四）、和田英作（二五）らが遊学していた。洋画家にとって西洋美術の伝統と技法を学ぶことは欠かせぬことであり、特にその中心的な都市・パリに行くことは、多くの画家たちの夢であり憧れだった。棲鳳はこれらの洋画家たちに劣らぬ研究心を持って渡欧した、最初の日本画家である。

▲竹内栖鳳「大獅子図」。明治35年頃。絹本着色、屏風・四曲一隻、239×281.8センチ。藤田美術館蔵。栖鳳は、ベルギー・アントワープの動物園で、憧れのライオンを写生した。この絵は、その時のスケッチをもとに制作された。 藤田美術館提供

◀渡欧する前年、明治三二年八月の撮影。この頃はまだ竹内棲鳳と号していた。

王舎城美術宝物館提供

滞欧中の棲鳳は、人々との交流よりも、むしろ見ることに情熱を注いだ。パリからロンドン、ベルギー、オランダを経てドイツにまわり、ベルリン、ドレスデン、ミュンヘンなどを訪れ、続いてウィーン、ブダペスト、ベネチア、フィレンツェ、ピサ、ローマ、ナポリなどの都市を驚くほど精力的に歩いている。

これら各地の美術館で、棲鳳は西洋の古典から近代の名だたる絵画を鑑賞し、レオナルド・ダ・ヴィンチやフラ・アンジェリコ、ヴァン・アイクら古典の巨匠をはじめ、ドガやマネら印象派の作家たちにも共感し、その技量に驚きを示した。また、イタリアで見た中世のフレスコ画に、日本画との共通性を発見し、不思議な感動をおぼえている。

中でも棲鳳がとりわけ眼を奪われたのは、清澄な空気を描いたと言われるフランスのコローやイギリスのターナーの風景画だった。ぜひともコローの作品を一枚ほしいと思ったが、財力がなく買えなかったことを、彼は後に悔やんでいる。

こうした棲鳳の西洋絵画への情熱は、実は、日本画の近代化を手さぐりしている彼の心の奥底から発するものだった。

当時、フェノロサ（四七）や岡倉天心（三七）らが掲げた「伝統を守り、新しい日本画を創造しなければならない」という考えに共鳴していたのである。

栖鳳は、翌三四年二月二六日に帰国。わずか五ヵ月間の旅であったが、収穫は大きかった。山種美術館の学芸員・浜中真治氏は、「栖鳳の渡欧の最大の成果は、光と空気を日本画の画面に取り入れたことです」と言う。

「その光と空気の表現は、帰国してから描いたヨーロッパの風景だけでなく、大正、昭和にいたる栖鳳の風景画にずっと生かされています」（浜中氏）

▲竹内栖鳳「ベニスの月」。明治三七年。紙本墨彩、軸装、一二〇×一七四・五センチ。高島屋資料館蔵。栖鳳は、日本画の伝統を受け継ぐ四条派の作風に、西洋の光の表現を取り入れ、新しい風景画を生み出した。

高島屋資料館提供

西洋美術に多くを学んだ栖鳳は、洋画をまねることも、和洋折衷にすることも、いずれも絵画の進歩にはならないとした。帰国後の三月に「京都日出新聞」に連載された「竹内棲鳳の談話」で、彼は次のように語っている。

「ハア、欧州の絵画でも彫刻でも、どうしても形に縛られる傾がある。また実物に離れにくい。之に反し日本はあまり離れすぎるです。然し欧州でも古い処から見ると、現今は疎な描方が多い。さうして中に彼方がやつてやつてやり尽して、押つまつた処が日本人の遣方につき当つて来るやうなこともあるです」

この談話からもうかがえるように、栖鳳は日本画に絶大な自信を持っていたようだ。

帰国後、日本画の技にも一層の磨きがかかり、「東の大観、西の栖鳳」と呼ばれ、日本画壇を二分するまでになる。昭和一二年に第一回文化勲章を受章するなど、さまざまな賞を受け名声に包まれ、昭和一七年八月二三日に没した。七七歳だった。

画塾の竹杖会を主宰し、京都市立絵画専門学校教授として、多くの優れた後進を育てた。門下には西山翠嶂、上村松園、西村五雲、小野竹喬、土田麦僊、橋本関雪、徳岡神泉、池田遙邨ら、近代日本画の第一級の人物が並ぶ。新時代の指導者として栖鳳のはたした役割は、はかりしれないほど大きかった。

20世紀博物館

シーボルト記念館

長崎市

西洋の先端情報を教えた「鳴滝塾」跡地で幕末の国際交流を偲ぶ

桑原茂夫

▼シーボルトの名著『ニッポン』。武具・鎧の解説ページと、古式捕鯨を描いた図のページが開かれている。

江戸時代が終わりつつあった頃、日本の近代化に深くかかわった外国人として、シーボルト（一七九六〜一八六六）の存在は大きな意味を持っている。

来日一年後の文政七年（一八二四）には、奉行所の許可を得て、長崎郊外の鳴滝で個人塾を開き、全国から集まった日本人逸材の向学心にこたえた。通称「鳴滝塾」である。かくして鳴滝の地は、日本の近代化を象徴する場所となったのだが、まさにその鳴滝に平成元年、長崎市制一〇〇年を記念してこの「シーボルト記念館」が建てられた。関係資料や遺品などの展示を通して、シーボルトの実像を浮かび上がらせようとするミュージアムである。

シーボルトは、その遺品のひとつとして「薬箱」が展示されているように、当時の日本では魔法のような技だった西洋医学の使い手であり、名医の誉れ高い存在だった。鳴滝塾での教えも、当然、医療分野が中心だったが、彼の本来の目的はそこにとどまるものではなかった。

本国・オランダ政府から命じられていたのは、開国間近な日本という国の実態調査だった。博物学者でもあるシーボルトにとって、この任務は歓迎すべきもので、動植物などの自然はもとより、産業、生活、風俗、芸能にいたるまで、さまざまな分野の情報を集める仕事は、シーボルト自身の知的欲求を刺激するものにほかならなかった。

その成果の一部として、分厚い書籍『ニッポン』や、シーボルトお抱えの絵師・川原慶賀らによる、動植物のリアルなイラストなどが展示されている。

それらの展示物は、シーボルトが日本に向けた好奇の目を感じさせる。彼にとって日本は、豊かな自然を持ち、独自の文化を育んできた「不思議の国」にほかならなかったのだ。このシーボルトの感覚をちょうど逆の側から体験していたのが、高野長英、高良斎、二宮敬作ら、鳴滝塾にいた門弟たちだった。西洋の学問や技術を教えられながら、シーボルトの指示に従い、日本の情報を収集していった彼らは、あらためて日本を知り、日本という「不思議の国」に驚いていたのだと思う。

先述の絵師・川原慶賀もまた、シーボルトの目を通して日本を、そして世界を見た男だった。展示されている連続絵が面白い。オランダ人が熱帯地域から雇って連れてきた黒人たち、オランダ人の衣装や調度品、料理の類にいたるまで、そのディテールが好奇の目を通して描かれ、「不思議の国」のパノラマになっているのである。

わくわくするような国際交流ぶりだが、こういう時代もあったのだということを、このミュージアムは見せてくれる。

▼シーボルト記念館は、オランダのライデン市にある旧宅をイメージして建てられた。

▲鳴滝塾跡地。シーボルトの胸像が見える。手前は書斎跡。この付近で高野長英、高良斎、二宮敬作らがシーボルトの高弟として起居していた。

▲オランダ東インド会社の日本商館付医員として来日したシーボルトが使っていた薬箱。当時、シーボルトは、名医としての評判も高かった。

●シーボルト記念館
長崎県長崎市鳴滝二―七―四〇
☎〇九五―八二三―〇七〇七
市電新中川町駅下車、徒歩七分
開館時間＝九時〜一七時
休館日＝月曜日、年末年始
入館料＝一般一〇〇円

不平等条約撤廃でようやく裁判権を行使 日本での外国人への死刑執行“第1号”！ 横浜居留地「ミルラー殺人事件」

▲横浜・谷戸坂より居留地を望む。坂の下が堀川で、その向こうに居留地が広がる。横浜に居留地建設が本格化するのは、万延元年（1860）の春頃から。 横浜開港資料館蔵

生糸貿易を一手に担っていた横浜港の居留地は、西欧文明を取り入れる窓口であったが、一方では、西欧列強が押しつけた不平等条約による植民地支配圏の一部でもあった。居留地で起こった殺人事件の犯人・ミルラーが明治三三年一月、死刑に処せられた。この死刑執行は、まさに日本が西欧の抑圧を脱し、主権を回復した象徴的な出来事だったのである。

アメリカ人の元水夫が痴情により三人を殺害

凄惨な殺人事件が起きたのは、前年の明治三二年七月一七日の未明、横浜元居留地一三三番館の銘酒屋「ライジング・サン」の屋内だった。一階の酒場の長椅子のそばに外国人の男がうつぶせに倒れ、二階のベッドの上には、店の女将・外岡スエ（当時・二二歳）、隣の三畳間の蒲団の上に雇い人の鈴木アキ（当時・二〇歳）が寝巻きのまま倒れていた。

発見されたのは、午前七時すぎのことだった。すぐに加賀町警察署の検証が始まった。殺されていた外国人は、アメリカ人のネルソン・ウォールドで、その年二月に日本に上陸、八八番館の宿屋兼銘酒屋「ペレスフォード号フィッシャー」方に宿泊する、年のころ二十一、二歳の無職の青年だった。

検証結果によれば、ウォールドは店内の長椅子で寝ているところを、剃刀で頸部を切られ、さらにバールで顔面を乱打され、頭骨も破砕し即死の状態。外岡スエにいたっては、頭部や顔面にある一・・ヵ所の傷口はまるで蜂の巣状となり、周

▲山手からの居留地全景（写真奥）。明治政府の悲願だった条約改正だが、居留地の外国人にとっては永代借地権と領事裁判権を失うことを意味し、明治23年には、横浜の居留民によって、条約改正反対集会が開かれている。 横浜開港資料館蔵

◀邑井貞吉の講談本『ミルラー事件』挿絵。

囲には骨肉が飛び散り、ベッドは鮮血で染まるという惨状を呈していた。
犯人のロベルト・ミルラー（当時・四九歳）が逮捕されたのは、その日の午前一一時すぎ。ミルラーは犯行後、宿泊先である一三六番館の「ジムス・プレース号」に帰り、二階に閉じこもっていたところを、数十人の巡査に包囲され、あっけなく取り押さえられた。
ミルラーはアメリカ・ニューヨーク州バッファローの生まれで、米国帆船「トム・オーシャンター」の水夫だった。彼は船長との折り合いが悪く、明治三二年四月に横浜港に碇泊中の船から脱走し、被害者・外岡スエがいとなむ「ライジング・サン」に出入りするうちに、飲食代の取り立てをするなどしてスエの歓心を買い、深い仲になるが、やがて同店に入りびたりで酒食をほしいままにするという荒くれぶりを見せ始めていた。
犯行は、痴情によるものである。ミルラーの凶暴性にいや気がさしたスエは、一方で、同じ店に出入りしていた被害者・ウォールドを親切にもてなした。そこでミルラーに強い嫉妬が芽生え、それが殺意へと変わり、犯行におよんだのである。
明治三二年七月二六日、事件発生から九日後、横浜地方裁判所は、予審で重罪裁判を決定、八月一九日には死刑判決が言い渡された。すぐに控訴されたが、一〇月一四日、東京控訴院でも死刑判決、さらに上告された大審院では弁護士から減刑恩典請願書が提出されたが、一〇月二三日、上告棄却の判決が出される。
死刑が執行されたのは、犯行から半年後の明治三三年一月一六日、東京・市ケ谷にある監獄支署であった。それは、居留地の治外法権を脱した、日本の法律に基づく外国人に対する死刑執行の"第一号"だった。

自主権回復を象徴する「ミルラー事件」の裁判

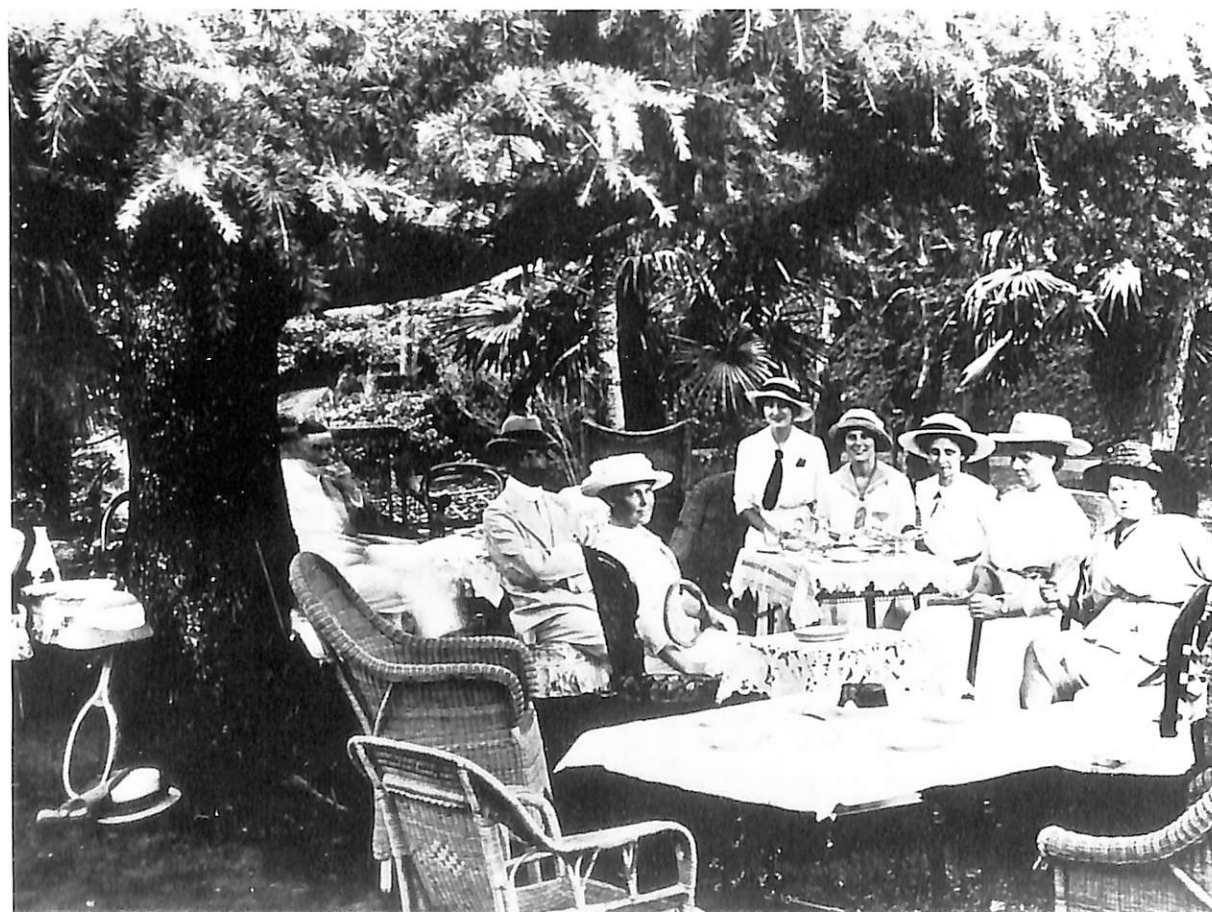
居留地とは、江戸時代末期、開港を余儀なくされた徳川幕府が、外国人に土地の貸与を認め、居住や商業活動を自由に認めたエリア（区域）のことである。
安政元年（一八五四）の「日米和親条約」、その後の「安政五箇国条約」により、開港と開市が実現し、居留地が開かれたのは、横浜、長崎、箱館（函館）、後に新潟と神戸の計五港と大坂（大阪）、東京の二市であった。
しかし、明治二九年に起きた横浜居留地内での英国人クラブ支配人、ウォルター・カリュー毒殺事件の犯人として、翌三〇年二月に終身重労働を科せられた夫人のイーデス・カリューの裁判に見られるように、在留外国人に対する法権は当該国の領事の下におかれ、日本はいつも蚊帳の外であった。
また、上海や香港に次ぐアジアの貿易港として活気づく横浜居留地内では、治外法権を口実に、生糸取引で商品の量や質を故意にごまかすなど、欧米人の蛮行も横行したが、日本人にはなんら、なすすべがなかった。
関税の自主権がないため、関税率が五パーセントに固定されると、安い外国商品が大量に日本に流入して日本の産業発展を著しく阻害したことは言うまでもない。
このように、日本の独立と国益をそこなう不平等条約の改正は、明治政府にとって悲願であった。明治四年、政府は岩倉具視を欧米に派遣し交渉にのぞんだが失敗。その後、列強各国との個別交渉が進められていく。そして明治二二年、ようやくアメリカとの間で、「西洋人関係の裁判に西洋人法官が多数を占める混成裁判所を大審院のみに限り設ける」などの条件で、日本の法権を認め、その引き換えに居留地を廃止し、日本の内地を開放するという単独条約が締結された。
一方、イギリスは旧条約に固執し、日米間の条約締結に反対する。しかしロシアがシベリア鉄道の起工を計画し、極東への進出をくわだてると、イギリスは日英間の友好関係を重視し、難局打開への道が開かれることになった。
その後、第二次伊藤博文内閣の外相・陸奥宗光は、イギリス、ドイツなどとの交渉を進め、ついに明治二七年七月、イギリスとの間に、治外法権の撤廃、税率引き上げの交渉に成功した。
そして日清戦争の勝利による国際的地位の向上も後ろ盾となり、明治三〇年の末までには残る列強との条約改正調印が行われる。明治三二年七月から新条約が発効され、日本は欧米との対等な国際関係に入ったのである。
「日本の黎明が凝縮されていたのが、横浜の居留地でした。外国人との軋轢の中で、生糸貿易を一手に支え、その後の日本の発展の礎を築いたのです。居留地制度廃止の年に起こったミルラーの殺人事件に対する日本の裁判権の発動は、西欧の抑圧を振り切り、日本の自主権回復を象徴した出来事だったと言えます」
こう語るのは、居留地の事情に詳しい日本大学教授の石塚裕道氏である。

目下之大問題 植木枝盛著 條約改正如何 全 明治二十二年九月出版

新演説 第十號 島田三郎君著 條約改正論 東京 大成館

田口卯吉著 居留地制度ト内地雑居 明治廿六年十月 經濟雜誌社

▶条約改正、居留地制度をめぐって、さまざまなパンフレットも出された。 横浜開港資料館蔵

▶明治三二年の条約改正により、日本で初めて、アメリカ人のミルラーを裁いた横浜地方裁判所。 横浜開港資料館蔵

▲横浜居留地での生活のひとこま、テニス・パーティー。居留地は、一面で新しい外国の文化を日本に持ちこんだ。 有隣堂提供

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

Mary Evans／ユニフォト・プレス

▲「ツェッペリン1号」浮上（7月2日）硬式飛行船の有効性を説く独人・ツェッペリンが、乗員4人を乗せ、ボーデン湖で初飛行。全長128メートルの巨体だった。

▼カナダ三尾村村人会、結成（7月）明治20年に新天地を求めて和歌山県三尾浦をたった工野儀兵衛の尽力で、おもに鮭漁にたずさわるカナダ移民150人が連携。

毎日新聞社

東京芸術大学大学美術館提供

▶楠木正成銅像、完成（7月10日）別子銅山開坑200年を記念し、住友家が天皇への銅像奉献を申し出た。高村光雲（48、左後方）らが制作、二重橋前に建立した。

◀川上音二郎・貞奴、パリで大人気（7月4日）「万国博」会場内の劇場に出演。すでに米・英を巡演、世界的名声を得ていた二人は、ここでも最高の評価を得た。写真は「紅葉狩」を演じる二人。

▶第2回五輪、陸上競技開幕（7月14日）創始者・クーベルタンの功労に報いたパリ開催だが、資金難から「万国博」の余興と見られたほど低調。写真は綱引き競技。

◀戦艦「朝日」が完成（7月31日）日本初の1万5000トン級戦艦。英国で建造。この頃、後に日露戦争で活躍する各種軍艦が、国内外で続々と完成していた。

呉市企画部海事博物館推進室提供

秩父宮記念スポーツ博物館提供

明治33年7月

1（日）●初の相撲映画「回向院夏場所大相撲」、東京・錦輝館で公開。料金は一等一円、四等一五銭。
2（月）●世界初の大型飛行船「ツェッペリン一号」、独・ボーデン湖上で一八分間の初飛行。
3（火）●露、政治犯のシベリア流刑廃止令を発令。
4（水）●義和団、奉天付近で東清鉄道を破壊。
5（木）●独の客船「ドイチュラント三世号」、北大西洋で平均二三・六一ノットのスピード記録樹立。
6（金）●京都の村井吉兵衛が製造販売する国産ミシン糸は外国品より高品質、との評価が新聞に。
7（土）●東京・上野公園で会津戦争の大パノラマ公開。
8（日）●日本鉄道会社が上野駅前にビヤホールを計画。
9（月）●豪、連邦法可決（翌年1月から連邦国家に）。
10（火）●高村光雲ら作の楠木正成銅像、宮城前に完成。
●パリで地下鉄一号線開通（世界では五番目）。
11（水）●猪苗代湖の水力電気事業が認可される。
12（木）●全国の鉄道駅は九二二と新聞に。
13（金）●広島の第五師団二万人余が清国に向け出発。
14（土）●第二回五輪の陸上競技、パリで開幕。米国・クレンツレーンが陸上で個人四種目優勝。
15（日）●露兵、清露国境のブラゴベシチェンスク付近で、清国人住民数千人を虐殺。
16（月）●レーニン、露からスイスに亡命（五年間）。
17（火）●福島県安達太良山が大噴火。硫黄鉱山施設が全滅、鉱山労働者ら七〇人余死亡。
18（水）●浅草・花屋敷園内の人気動物・ヒヒ、「醜態」を演じて風俗をそこなうとして観覧停止に。
19（木）●九州に豪雨。長崎県では汽車が行方不明に。
20（金）●米国で研究を重ねた岩城滝次郎が、日本初の板ガラス製造会社を設立する、と新聞に。
21（土）●横浜・山下町で倉庫火災。砂糖・麻など焼失。
22（日）●「東京朝日新聞」、発行部数一〇万部に達する。
23（月）●カナダが移民法を改正、犯罪者の入国を禁止。
24（火）●ニューオリンズで人種暴動。黒人街焼かれる。
25（水）●欧州巡業中の川上音二郎一座、ロンドン公演の成功で英宮殿に招待される、と新聞に。
26（木）●中国革命派の孫文、日本に再度の亡命。
27（金）●本年の両国花火は、三寸五分・四寸合わせて一五〇発、仕掛けは二〇基、と新聞に。
28（土）●仏で日本発注の巡洋艦「吾妻」が竣工（31日、英で戦艦「朝日」が竣工）。
29（日）●伊国王・ウンベルト一世、暗殺される。
30（月）●英、鉱山法を可決。年少者の地下坑労働禁止。
31（火）●東京で大学講義録の違法販売取締りと新聞に。

証言・あの日この日

河口慧海（34）

7月4日（水）〈ここはすなわちネパールの国端れでチベットの国の始まりという絶頂です。／都合のよい石のあるような所を見付けてそこの雪を払ってまずそこに荷物を卸し、ヤレヤレとそこでまず一息して南の方を眺めますとドーラギリーの高雪峰が雲際高く虚空に聳えて居る。高山雪路の長旅苦しい中にも遥かに北を眺めて見ると、チベット高原の山々が波を打ったごとくに見えて居るのです〉（河口慧海『西蔵旅行記』）

15歳の時、釈迦伝を読み感動して仏門に入った河口慧海は、仏教未伝の経典を求めてチベット探険を思いつく。当時、外国人のチベット入国は命懸けの大冒険であった。しかし、河口は仏の加護を信じ、明治30年、日本を出発。そしてネパールの険しい雪原を踏み越えて、この日、一人で、チベット国境にたどり着く。（山崎行太郎）

坂井湾提供

▲七尾鉄道、全通（8月2日）津幡口（現・本津幡）―津幡間が開通。これで、能登半島基部を横断して七尾と北陸線が結ばれ、明治29年着工以来の夢が実現した。輪島までの延長は、昭和10年。写真は七尾駅での記念式典。

▶救世軍の廃娼運動家が負傷（8月5日）東京・吉原の遊廓に乗りこんで売春廃止を訴える兵士らに対し、楼主は用心棒を雇って応戦。娼妓契約の無効を主張して自由廃業を援助する救世軍の戦術は、業者の脅威となっていた。

都ホテル提供

▲京都・都ホテル、開業（8月10日）豪商・西村仁兵衛らが、三条・吉水遊園内の八景閣を洋式に改築。後、英国・コンノート殿下が宿泊するなど、「国賓ホテル」として、海外での評判も高まった。

▶第1回デ杯、開催（8月8日）1883年来の歴史を持つ米英対抗テニス試合が、「デビスカップ選手権」と改称。純銀製優勝杯を寄贈した大学生・デビス（中央）の加わった米チーム（写真）が勝った。

▶自転車で富士登山（8月18日）鶴田勝三と米人・ボーンが挑戦。台風のため難渋したが、22日、ようやく7合目にいたり、かついで登った自転車で御殿場まで降りた。写真はソリをブレーキ代わりに下山する二人。

日本自転車普及協会 自転車文化センター提供

明治33年8月

1（水）●唯一、電球を国産する東京電気、販売部を新設。
2（木）●北米で日本人移民排撃運動が激化、青木外相は当面の間、移民を禁止するむね各県に通達。
3（金）●青森県恐山の硫黄製錬工場で爆発、一人死亡。
4（土）●東京市、一～七月の出火一七〇件、原因は放火二〇・ランプ一六・火鉢一三などと新聞に。
5（日）●救世軍、東京・吉原で廃娼運動中に暴徒に襲われる（この頃、廃娼運動への暴行頻発）。
6（月）●日本軍が天津で略奪した馬蹄銀一二〇万両が、日銀に到着。
7（火）●幸徳秋水、「万朝報」に非戦論を掲載。
8（水）●テニスの第一回デビスカップ、米で開催。
9（木）●徳島に阿波農工銀行設立（北海道をのぞく全国に農工銀行の設置完了）。
10（金）●清国軍兵士の練度は、日清戦争当時よりはるかに向上している、と新聞に。
11（土）●群馬県の伊香保温泉では、徳川公爵・三井男爵など二五〇〇人が避暑、と新聞に。
12（日）●水産講習所が遠洋漁業用漁船を新造と新聞に。
13（月）●秋田県知事が油田開発に本腰、と新聞に。
14（火）●連合軍、北京を総攻撃（翌日、義和団が包囲していた各国公使館を確保）。
15（水）●石炭業者、業界不況のため売り止め方針協議。
16（木）●台湾鉄道営業律令を発布。
17（金）●兵庫県下のマッチ業者が同盟全休決議。
18（土）●米人・ボーンと鶴田勝三、自転車で富士登山。
19（日）●彫金家の香川勝広ら、日本金工協会を結成。
20（月）●小学校令を全面改正。義務教育四年制を確立。
21（火）●秋田県能代で大火。警察署ほか七五〇戸焼失。
22（水）●加工用輸入物品の関税を免除する法律公布。
23（木）●近く、仙台市に電話開設の予定、と新聞に。
24（金）●逓信省、電話呼出規程を制定。未加入者を電話局へ呼び出すサービスで、一回一〇銭。
25（土）●横浜在留中国人ら、中華街市場開設を出願。
26（日）●この数日、東海以西で暴風被害甚大と新聞に。
27（月）●英で初の長距離路線バス運行開始。ロンドン―リーズ間三二〇キロを二日がかりで走行。
28（火）●宮内省、台湾製糖の株式一〇〇〇株引き受け。
29（水）●東西の「朝日新聞」、村井啓太郎の「北京籠城日記」を連載開始。国際的特ダネで話題に。
30（木）●露軍、黒竜江省城を占領。満州（中国東北部）への侵略が本格化（後、日露戦争に発展）。
31（金）●パリ近郊で不良グループ「アパッチ族」が騒動、新聞をにぎわす。

▲**私立大阪盲唖院開く(9月13日)**17歳で失明した事業家・五代五兵衛が、南区に無料の学校を設立。写真は2年後に生徒と。右端・五代、左端は院長の古川太四郎。

憲政記念館提供

◀**立憲政友会、発会(9月15日)**元老・伊藤博文が既成政党改革をめざし、帝国ホテルで旗揚げ。翌月、外相・軍部大臣以外は政友会幹部という第4次伊藤内閣が成立。

早稲田大学図書館提供

▶**早大の制服・制帽決まる(9月)**東京専門学校が、2年後の「大学」への改称を決めたのを機に実施。写真は記念撮影。制帽は英・ケンブリッジ大学風、徽章には「専」の字。

▲**関西鉄道、官鉄・東海道線と張り合う(9月)**名古屋—湊町間(現・関西本線)を本線に昇格させ、熾烈なスピード競争を展開。写真は速度向上のために米国から輸入された高性能機関車「早風号」。

▶**皇太子成婚記念に自動車献納(9月)**サンフランシスコ在住の邦人が5300ドル余りを集め、うち3100ドルで、米国製のビクトリア調馬車型電気自動車を購入、皇太子に贈った。写真は同型車。

佐々木烈『明治の輸入車』/日刊自動車新聞社提供

「大阪経済雑誌」

▼**大阪中心にペスト大流行(9月)**死亡率は9割。ネズミ退治が最大の予防策とあって、警察が2~5銭で買い上げ。写真は、完全武装で患者にのぞむ桃山病院の医師ら。

明治33年 9月

1(土)●逓信省、電報規則制定。官報・局報・私報の三種に分類。ウナ(至急)などの略号指定。
2(日)●海外貿易は依然として輸入超過、と新聞に。
3(月)●英、アフリカのトランスバール併合を宣言。
4(火)●露がザラメ糖を日本に輸出開始、と新聞に。
5(水)●仏、アフリカのチャドを軍事保護領とする。
6(木)●「大阪毎日新聞」の主筆で社長の原敬が、政友会入党のため辞職。
7(金)●文部省の漢字制限は教育勅語の神聖を冒すもので不敬きわまる、との論説が「日本」紙に。
8(土)●夏目漱石、文部省留学生として渡英のため横浜を出発(明治36年1月帰国)。
9(日)●千葉産の落花生が前年の一八万俵超える豊作、大半は海外に輸出、と新聞に。
10(月)●例年になく残暑厳しく、東京馬車鉄道の病馬が五〇〇頭に達した、と新聞に。
11(火)●東京の上野・新橋両駅構内に初の公衆電話。
12(水)●台湾守備での戦功者一一九人に勲章授与。
13(木)●日本鉄道会社で作業員の事故死が半年に一三一人、警視庁が重大関心、と新聞に。
14(金)●津田梅子が東京・麹町に女子英学塾を設立し開校式。生徒は一〇人(後の津田塾大学)。
15(土)●立憲政友会発足。総裁・伊藤博文、所属代議士は一五二人で、初の過半数政党となる。
16(日)●福島県若松市で会津戦争三三年忌を挙行。
17(月)●東京電気鉄道、市内電気供給事業の許可得る。
18(火)●本年度弁護士志願者は八五九人、と新聞に。
19(水)●静岡県の大石寺、日蓮宗大石寺派として独立。
20(木)●不景気でタバコ会社の破産が目立つと新聞に。
21(金)●大阪相撲一行、東京での興行を終え、次の興行地、神奈川県平塚へ向かう。
22(土)●歌舞伎座が、他座とのかけもち俳優は格の上下を問わず出演させないむね発表、と新聞に。
23(日)●パリで第二インター大会。ブリュッセルに初の本部事務局を設置することを決議。
24(月)●近衛篤麿ら、国民同盟会結成。中国・韓国への積極的進出を宣言。
25(火)●巡洋艦「出雲」、英で完成。
26(水)●広島市に電話交換局を設置。
27(木)●警視庁、商品への菊花紋章使用取締りを諭告。
28(金)●古河財閥の創設者・古河市兵衛が懇意の人を招き断髪式。時流に抗しえず、ちょん髷を切る。
29(土)●逓信省、第三種郵便物認可規則を公布。
30(日)●内村鑑三、月刊誌「聖書之研究」を創刊。

bpk/ユニフォト・プレス

▲**フロイト(44)、自由連想法治療を開始(10月)**ヒステリー患者・ドラを通じて、夢解釈と感情転移についての研究を完成。精神分析の基礎理論を確立した。写真は、晩年のフロイト。

▼**南方熊楠(33)、英国から帰国(10月)**7年間の大英博物館勤務にけりをつけ、故郷・和歌山に滞在。翌年から南紀植物調査を開始、隠花植物などの研究にいそしんだ。写真は家族と。

▲**第1回近畿連合野球大会開催(10月)**三高が主催し、月末から11月3日まで実施。後、関西連合野球大会に発展、大正9年まで続いた。写真は開催を記念して。

◀**一高に5寮完成(9月10日)**東京・駒場に建築中だった南・北・中の3寮が開寮。従来の東・西を加えて5寮となった。写真手前から南・北・中の3寮。

▶**チャーチル(25)、下院に初当選(10月11日)**前年の補欠選挙の雪辱をはたした。父は元蔵相。議会では、与党議員でありながら政府を激しく批判し、若手政治家グループのリーダーとして活躍。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

平凡社提供

◀**タイプライター、日本に初上陸(10月)**東京・日本橋の丸善が、英国から「ウェリントンNo.2」を輸入。小学校教員の初任給が10~13円の時代に135円もする超高級品。以降10年、この機種しか輸入しなかった。

丸善提供

明治33年 10月

1(月)●独議会、労働災害救済法案を可決。
2(火)●内務省、娼妓取締規則公布。娼妓の自由廃業が認められる。
3(水)●生保会社談話会、模範普通保険約款を制定。
4(木)●全国鉄道会社中、最も速いのは平均時速四〇キロの山陽鉄道急行列車、と新聞に。
5(金)●私製はがきは官製はがきと同一寸法・紙質でなければ第一種郵便の取り扱いせずと新聞に。
6(土)●東海道線の混雑激しく、乗車制限もと新聞に。
7(日)●奥羽北線、大館—鷹ノ巣間が開通。
8(月)●孫文ら、広東省恵州で反清国挙兵(恵州事件)。
9(火)●三菱、東京・有楽町の社有地一万四〇〇〇坪を鉄道用地として鉄道院に譲渡(坪四四円)。
10(水)●逓信省、無線電信を政府専掌とするむね公布。
11(木)●ウィンストン・チャーチル、英下院に初当選。
12(金)●神奈川県秦野のタバコ農家二〇〇〇人、買い上げ価格を不満として専売支局を破壊。
13(土)●日本郵船が、新たに六〇〇〇トン級の大型船六隻の新造を計画、と新聞に。
14(日)●韓国・慶雲宮殿で出火、歴代諸王の位牌焼失。
15(月)●三井呉服店が新築開店。従来の座売りを廃し、店内陳列方式とする。
16(火)●英・独、清国の門戸開放と領土保全を目的とする協商に調印(揚子江協定)。
17(水)●東京・神田の正則英語学校が新築落成。
18(木)●義和団事件を記録した「北清事変活動大写真」、東京の錦輝館で公開。戦争の実写が評判に。
19(金)●山県有朋・松方正義に「元勲優遇」の詔勅。
20(土)●愛知県下でウンカが大発生、豊年一転凶年に。
21(日)●娼妓の自由廃業続出で、業者は玉代アップなど対応に大わらわ、と新聞に。
22(月)●京阪の酒造家が清国への輸出を計画と新聞に。
23(火)●香川沖で仏運搬船「キャラバン号」と日本郵船「山口丸」が衝突、仏船沈没で三人死亡。
24(水)●東京時計、清国での売れ行き不振から解散。
25(木)●横浜では、軍艦用鉄材の輸入が増加と新聞に。
26(金)●移民会社五社の役員がハワイに渡航、移民再開を米国と交渉中、と新聞に。
27(土)●館林製粉(日清製粉の前身)設立。
28(日)●ボルネオから初輸入の石油が横浜着。
29(月)●自転車に乗る人の間などで、膝までしかないニッカーボッカー・ズボンが流行、と新聞に。
30(火)●甲武鉄道、大久保—万世橋間の電化決定。
31(水)●芝・増上寺の御成門が道路拡張で取り払いに。

『野球年報』

▲野球に初の優勝カップ(11月)秋田中学と南楢岡クラブの試合を見た知事が、闘志あふれる試合ぶりに感激して急遽製作、寄贈した。写真は第2回大会優勝の秋田中学チーム。

▶クリューガー、フランスに亡命(11月22日)ボーア戦争で英国に苦戦するトランスバール共和国大統領が、マルセイユに到着。捲土重来を期したが、4年後、スイスで客死した。

「イリュストラシオン」

▶「横綱力士碑」建立(11月21日)幕末の横綱陣幕が、東京・深川の富岡八幡宮に完成。裏面に初代・明石志賀之助から16代・西ノ海までの横綱力士累代姓名を刻んだ。「横綱」代数定位の範とされる。

◀梨本宮守正(26)、結婚(11月28日)元佐賀藩主・鍋島直大の次女・伊都子(18)と宮中の賢所で婚儀。披露宴は芝離宮で4日間実施。娘の方子は、後に韓国王家に嫁した。

飯田守

新日本製鉄八幡製鉄所提供

▲伊藤博文首相、八幡製鉄を視察(11月30日)翌年の完成をめざす、日本初の近代的銑鋼一貫製鉄所の、工事進捗状況を確認。写真は、東田第一高炉前での記念撮影。

▼戦艦「三笠」、進水(11月8日)排水量1万5140トン。英国で建造。日本海軍6隻目の、30センチ砲4門搭載の最新型艦。写真は、連合艦隊旗艦となった「三笠」。

呉市企画部海事博物館推進室提供

明治33年11月

1(木)●滝廉太郎、洋楽手法による日本初の歌曲集「四季」(武島羽衣作詞「花」など収載)発表。
2(金)●京浜電鉄に、川崎―神奈川間の鉄道敷設許可。
3(土)●ニューヨークで世界初の自動車ショー。
4(日)●農商務省が馬の去勢奨励を検討、と新聞に。
5(月)●文部省、ローマ字書方調査報告を官報に公示。
6(火)●横浜蚕糸銀行、頭取の株式投資失敗などによる破綻から支払い停止となる。
7(水)●フィリピン諸島割譲に関する米・スペイン条約調印。
8(木)●英で、戦艦「三笠」が進水。
9(金)●年賀状印刷代は一〇〇枚一五銭、と新聞に。
10(土)●東京帝大運動会、ヤード制廃しメートル制に。
11(日)●露、清国と密約、満州占領地の権益独占。
12(月)●漢城(現・ソウル)―仁川間に、朝鮮初の京仁鉄道が開業。
13(火)●外套にインバネスが流行のきざし、と新聞に。
14(水)●静岡市の旧徳川邸を葵ホテルに改築と新聞に。
15(木)●劇場取締規則を改正。脚本検閲の強化、小劇場にも回り舞台を許可、など。
16(金)●市民の資金提供による世界初の楽団・フィラデルフィア管弦楽団が第一回コンサート開催。
17(土)●東京商船学校練習船「月島丸」が暴風の駿河湾沖で沈没、船長・練習生一二二人全員死亡。
18(日)●日本人は、短距離は一・二等に乗るが、遠距離では三等に乗る、外国人とは反対だ、と新聞に。
19(月)●東京株式取引所、日本郵船株をのぞき沈滞化厳しく、仲買人の廃業者が続出と、新聞に。
20(火)●鉄道作業局、英国製機関車二四台の輸入につき入札実施。六社が競い大倉組がすべて落札。
21(水)●横綱力士碑が東京・深川の八幡宮境内に完成、落成式挙行。相撲協会取締の雷ら参拝。
22(木)●万国平和宣言を公布(前年、オランダで二六カ国が決議)。有毒ガスなどの使用を禁止。
23(金)●警視庁が自転車運転規則を作成中、と新聞に。
24(土)●紀和鉄道、粉河―橋本間が開通し全通式。
25(日)●江ノ島電鉄、創立総会(12月4日設立登記)。
26(月)●横須賀医術研究会が発会。軍医による医療研究とともに、治療室では一般患者を無料診療。
27(火)●三井物産、朝鮮人参の委託販売を認可される。
28(水)●台湾の高雄―台南間に鉄道開通。
29(木)●東京・京都に次ぐ第三の帝大新設が現実味をおびてきた、と新聞に。
30(金)●独で前輪駆動自動車の特許が認可される。

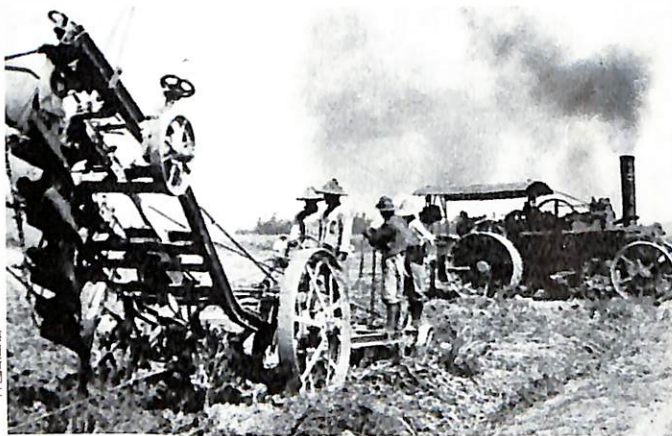
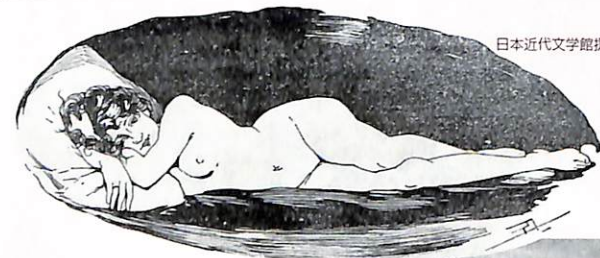
東京女子医科大学提供

▶東京女医学校、創立(12月5日)東京女子医科大学の前身。女医・吉岡弥生(29)と夫・荒太(33)が、東京・麹町に開校。写真は2年後、長男・博人(後に学長)の誕生記念。

◀庄川鉄橋が完成(12月)北陸線・高岡―小杉間を接続、全長422メートル。前年3月に仮橋で営業開始、やっと本橋梁完成にこぎつけた。これで敦賀―富山間が本格開通。

▶プランク、「量子論」を発表(12月14日)ベルリンの学会で「エネルギーは粒子である」と主張。アインシュタインの相対性理論とともに、20世紀物理学の開幕を告げた。

毎日新聞社

▼台湾製糖誕生(12月10日)日清戦争で領有した台湾に近代的な製糖事業を興すため、総督の児玉源太郎、三井物産の益田孝らが組織。写真は高雄州の農場での機械化の様子。

日本近代文学館提供

▼野口英世、念願の渡米(12月5日)友人から渡航費を得、来日の際に通訳をつとめた米国の病理学教授・フレクスナーをたよった。24歳。「世界のノグチ」への第一歩だった。写真は、この頃の英世。

野口英世記念会提供

▲「明星」11月号が発禁(12月)一条成美筆の挿絵(上)を、当局が「風俗壊乱」と判断。「明星」は与謝野鉄幹主宰、この年4月に創刊された詩歌中心の雑誌。浪漫主義的芸術至上主義が特徴で、女性解放にも大きな役割をはたした。

明治33年12月

1(土)●東海道線の急行列車に、スチーム暖房を導入。
2(日)●東京で貸自転車業盛業。顧客は商店の営業が多く、車種により一五銭から五〇銭と新聞に。
3(月)●台湾銀行、初めて五〇円の銀行券を発行。
4(火)●東京の明治銀行、重役の株投機失敗で破綻。
5(水)●吉岡荒太・弥生夫妻、東京女医学校を創立(後の東京女子医科大学)。
6(木)●黒岩周六(涙香)、「五目並べ」を「連珠」と呼ぶことを提唱。
7(金)●アラスカ・ユーコン川流域で、有望な金鉱発見(クロンダイク川に次ぐ大発見と騒がれる)。
8(土)●東京音楽学校、ビゼーの「カルメン組曲」初演。
9(日)●東北に大雪、会津では一夜に一・五メートルの積雪。
10(月)●台湾製糖、台南に創立(社長・鈴木藤三郎)。
11(火)●大阪・和歌山のペスト流行で横浜市厳戒態勢。
12(水)●飼鳥の流行はカナリヤが断然一位、と新聞に。
13(木)●歳暮にビールを贈る人がふえていると新聞に。
14(金)●独物理学者・プランク、初めて量子論を提唱。
15(土)●日本生命、中国赴任者への保険料割増を決定。
16(日)●ミッドウェー島に日本人羽毛業者六人が生活、米政府は日本の先占権主張を警戒、と新聞に。
17(月)●東京湾艀会社で五〇〇人が社長排斥スト。
18(火)●憲政本党、新設の総理職に大隈重信を推す。
19(水)●小村寿太郎、駐清国公使に任命される。
20(木)●加藤高明外相、駐日露公使と、日露間最大の懸案、韓国問題に関し、第一回会談。
21(金)●埼玉県の農学校新設計画で、川越町と熊谷町が誘致合戦、と新聞に。
22(土)●東京・浅草区の銭湯が値上げ。大人二銭が二銭五厘、一三歳以下一銭五厘が二銭に。
23(日)●不況で輸入品売れず、商社倒産続出と新聞に。
24(月)●風月堂がウエハースを発売、好評と新聞に。
25(火)●熊本第九銀行が所有株下落で支払い停止。九州一帯に金融恐慌誘発(翌月、東京にも波及)。
26(水)●来年度の府県立中学校の開校は、東京の第二・第三など、全国で八校と新聞に。
27(木)●銀座・天賞堂時計店が新築落成、開店祝い。
28(金)●仏国会、ドレフュス事件(明治27年)に関する諸事件の恩赦法案を可決。
29(土)●東京市内の地価は五年前の三倍、と新聞に。
30(日)●清国、義和団事件の講和条件一二条を受諾。
31(月)●東京・三田の慶応義塾で世紀送迎会。塾長ほか五〇〇人、仕掛け花火で二〇世紀到来を祝う。

我楽多市

流行語
オレもやめたい宮仕え……

「自由廃業」。この年は、娼妓の自由廃業が一大社会問題となり、「自由廃業」という言葉がいろいろな形で使われた。特に役所の給仕や警察官などの間では、憂さ晴らしとして「自由廃業したい」という言い方が大流行した。

「救世軍」。これも自由廃業関連の流行語で、他人のタバコを黙って取ること。救世軍は、娼妓の自由廃業を体を張って助けたグループだが、当時は他人のものをいきなり奪い取る集団とみなされ、こう言われた。

「驚くなかれ」。タバコの製造販売業者で、大げさな宣伝で有名だった岩谷天狗商会で使い始めたもので、たとえば一〇〇〇円もの金が集まった時に、「驚くなかれ、集まった金がたったの一〇〇〇円」などと、逆説的な強調語として流行した。

「嘲弄語」。相手を小馬鹿にして使う言葉という意味で、具体的には「先生」「貴公」「大将」の三つをさす。特に学生や役人の間で、自分の優秀さを誇示するため使われた。日露戦争後は「貴公」に代わって、「社長」という呼び方が使われるようになる。

◀この年3月21日、小田原電気鉄道が国府津―小田原―箱根湯本間で営業を開始した。日本で初めての電気鉄道だった。

酒
下戸でも三升 力士と酒量

力士の酒好きは昔からのことで、「私は下戸ですから」というものでも三升くらいは飲む。現在の力士の中で、好酒家として知られているのは鳳凰と海山で、鳳凰は御輿を据えて飲み出すと、一升徳利の一八本くらいは軽く倒すという。海山もほんのちょっとが三升で、五升飲めば少し酔うと言い、その先いくらでもいける。

それでも昔に比べれば少なくなった方で、今は年寄になっている武蔵川、井筒、柏戸などは「今でも一升くらいは飲めましょう」と言い、現役の頃にはそれ以上に飲んでいたという。

(「報知新聞」一月二六日)

データ
えらい人の順番 宮中席次決まる

伊藤博文新内閣の誕生によって新しい宮中席次が次のように改められた。

①総理大臣　伊藤博文
②侯爵　九条道孝
③元帥　山県有朋
④元帥　大山巌
⑤元帥　西郷従道

ここまでは、総理大臣をのぞいて不動。六位からが各大臣で、⑥内大臣・徳大寺実則、⑦陸軍大臣・桂太郎、⑧宮内大臣・田中光顕、⑨海軍大臣・山本権兵衛、⑩大蔵大臣・渡辺国武、⑪外務大臣・加藤高明、⑫司法大臣・金子堅太郎、⑬文部大臣・松田正久、⑭農商務大臣・林有造、⑮逓信大臣・星亨。

また大臣以外では、松方正義、大隈重信、井上馨、土方久元、榎本武揚、板垣退助という順番だった。

(「時事新報」一〇月二三日)

◀「二六新報」九月八日付に掲載された、小林清親画「娼妓の自由廃業」。この年、遊廓で働く娼妓たちの自由廃業運動が、全国で大いに盛り上がった。 日本漫画資料館提供

CM100年

ポスター「毒掃丸」(山崎帝国堂)

▲現在も販売されているロングセラーの薬品の広告。人気のあった相撲を題材に、薬の効能を端的に絵で表現し、当時、最も優れた広告と言われた。

三面記事
失せ物拾い物、何でもOK

「時事新報」が福沢諭吉の提案で、新聞で初めての案内広告を設けた。全文ひらがなで書かれているが、これも「女子ども も読めるように」という諭吉のプランによるものだった。

「よろずあんない
このらんには　うせもの　ひろいもの　いえやしきなどの　うりかい　かりかし　ひとをやといたきこと　やとわれたきこと　そのほか　なにごとに　よらず　せじんの　べんり　となる　みじかきこうこく　を　あつむ
一、もうしこみの　せつは　一けんにつき　二〇せん　やとわれたきものにかぎり　一〇せんをそゆべし
一、一けんの　ぎょうすうを五ぎょう　までとす
▲よき　かしいえ　あざぶ　まみあなに　もんがまえ　にて　まかず　五ま　やちん一二えん　しききん三〇えん　にわひろし
▲べっそうようち　ちがさき　ほうみべ　にて　一〇〇〇つぼ　ほかに　ステーションまえ　たてい　え　一〇〇つぼ　ぢめん　三〇〇つぼ　しきゅう　うりたし」

(「時事新報」三月三日)

浜松市楽器博物館提供
▲この年1月、山葉ピアノ第1号が発売された。写真はその試作品。

はやり歌

東雲節

詞　鉄石・不知山人
曲　不知山人

なにをくよくよ　川端柳
焦がるる　なんとしょ
水の流れを　見て暮らす
東雲の　ストライキ
さりとはつらいね　てなこと
おっしゃいましたかね

自由廃業で　廓は出たが
それから　なんとしょ
行き場がないので　屑拾い
浮れ女の　ストライキ
さりとはつらいね　てなこと
おっしゃいましたかね

三十三間堂　柳のお柳
焦がるる　なんとしょ
可愛いみどりが　綱をひく
住吉の　街道筋
よいよいよいとな　てなこと
おっしゃいましたかね

▲この年、大審院で、娼妓の拘束は無効の判決があり、自由廃業運動がさかんになった。熊本県二本木(写真)の東雲楼でも廃業が相次ぎ、〝ストライキ〟と歌われた。

花

作詞　武島羽衣
作曲　滝廉太郎

春のうららの隅田川
のぼりくだりの船人が
櫂のしずくも花と散る
ながめを何にたとうべき

見ずやあけぼの露浴びて
われにもの言う桜木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさしまねく青柳を

錦おりなす長堤に
暮るればのぼるおぼろ月
げに一刻も千金の
ながめを何にたとうべき

◀高師付属音楽学校(現・東京芸術大学)研究科に在籍中の滝廉太郎の作曲。滝は翌年、ドイツへ留学するが、それまでに多くの名曲を残した。写真は楽譜表紙。

事件
強盗の死刑執行で「安心会」の大安心

〔水戸発〕世間から〝稲妻小僧〟とうたわれ、出没自在で人命を奪い、財産をかすめ、東京府下および近県良民の肝胆を寒からしめ、数回捕われて数回破獄した坂本慶二郎(三五)は、ついに三月一七日、市ケ谷監獄支署で絞首台の露と消えた。

ところで昨年二月、慶二郎が捕縛されるや、茨城県新治、真壁、稲敷地方の村民は「安心会」というものを組織し、今ではその会員が七〇〇〇人にも達しているが、同賊が死刑を執行されたとの報が伝わるや、会員一同、各戸に国旗を立て、御神酒を供え、祝い餅をついて、大いに安心したという。

(「国民新聞」二月一八日)

▲12月25日発行の日本銀行兌換券、100円紙幣。この紙幣と金貨100円とを交換できた。

夫婦
夫の趣味は離縁、復縁 越後男のあきれる話

〔新潟発〕新潟市の肥汲み渡世・村山大次郎は、今回、三人目の新婦を迎えたが、前の女房に対し、引き出しを開け閉めするように離縁・復縁を繰り返した男である。

それをあげれば、二人目の前の女房は明治二三年九月に嫁入りしたが、同年一二月に離縁になった。しかし二四年一月に逆戻りし、同三月離縁。さらに四月逆戻り、一〇月離縁。二五年三月逆戻り、二六年一月離縁といった具合。この時は、女房もさすがにあきれて実家にとどまった。

大次郎は明治三三年に離婚した最初の女房とも、数回の出入りを繰り返したという。

(「東京朝日新聞」三月一七日)

この年の初もの
水道工事店・上水社 東京・新橋で開業

●**瓶詰め醤油**　千葉県野田市でお土産用に登場。以後、主流に。

●**優勝カップ**　秋田県中等学校野球大会に、秋田教育会が寄贈。

●**深呼吸健康法**　小田部荘三郎が創始。明治四〇年代になって、体重増加、肺結核の治療に効果があるとして広がる。

●**国際自動車レース**　六月、パリ―リヨン間で行われ、英、仏、独、ベルギーから五台が参加。五台とも完走したが、全車が途中で犬をはねたという。

▶大阪府第一高等女学校(写真)は、明治三三年九月に認可され、翌三四年四月に清水谷高女と改称。現・清水谷高校。

「汽笛一声 新橋を」で二〇〇〇万部売り上げ
伸びゆく〝鉄路の時代〟にアイディア適中
「鉄道唱歌」大ヒット！

明治三三年、一九世紀の終わりを迎え、二〇世紀のプロローグが奏で始められたこの年、「鉄道唱歌」が発売された。レコードが一般化する前だったが、黎明期の鉄道人気を背景に、歌詞と楽譜の載った一部六銭の冊子は、大正初期まで売れ続け、実に人口の半分にも達する二〇〇〇万部を売りつくしたのである。

作詞には全国鉄道行脚 宣伝費は一〇万円を投入

明治三三年五月、日本各地を一〇人編成の楽隊が練り歩き、人々の爆発的な喝采を受けていた。後に「ジンタ」と言われる形式のこの一隊は、この年の五月一〇日に発売された「汽笛一声 新橋をはや我が汽車は離れたり」と歌い出される「鉄道唱歌」の宣伝のために繰り出したのだった。

海軍士官の制服に似たユニフォームの楽隊は、軽快なマーチ風の曲と、荘重な雅楽調の曲の二曲をかわるがわる奏でながら行進した。行進の後には大群衆が続き、楽隊の中から時折、花吹雪のようにまき散らされるチラシを争うように拾ってはむさぼり読んでいる。交互に演奏される二曲のうちで、群衆が圧倒的に支持したのはマーチ風の軽快な曲の方だった。

演奏された二曲は、ともに「鉄道唱歌」だった。作詞は、抒情詩人の大和田建樹（四二）。大和田は「夕空晴れて秋風吹き……」の歌詞で知られた「故郷の空」の作詞や、明治二〇年代初頭の文部省唱歌の多くを手がけ、『文部省選定唱歌』など国定音楽教科書の編纂にも尽力した、明治唱歌界の大御所だった。「鉄道唱歌」は、この大和田の作詞に二つの曲がつけられたのだった。マーチ風の軽快な調べの作曲者は多梅稚、当時三一歳、大阪師範学校で音楽を教えていた、まったく無名の青年だった。一方は、すでに東京音楽学校の教授として活躍していた重鎮で、後に宮内省雅楽長にもなった上真行（四八）。そしてこの師弟対決は、圧倒的に多梅稚に凱歌があがったのだった。

「鉄道唱歌」は、大和田と二人の作曲家のまったくのオリジナルではなく、ルーツがあった。「汽車の旅」がそれだった。自由民権運動の流れを汲む演歌壮士が、鉄道沿線の風物を歌いこんで人々の人気を得ていたものだった。大阪の出版社「市田昇文館」の主人・市田元蔵（四四）は、これにヒントを得て「歌って楽しみながら地理や歴史の教養が身につく作品」を作ることを思いたったのである。

「汽車の旅」は、歌詞にいささか下品なシモネタが含まれていたことと、メロディーが演歌の「欣舞節」そのまま、つまり替え歌だったことがひっかかっていた。そこで、新しい詞と曲を作ることに決め、旧知の大和田らに依頼したのである。だが、作品ができるまでに、資金が底をつき、版元は市田から、同じ大阪の楽器商・三木佐助に引き継がれていった。

一方、大和田らが全国を取材する鉄道行脚を続けたすえ、作品を完成させたのが「地理教育」と銘うたれて発売された『鉄道唱歌第一集（東海道編）』だったのである。ジンタの起用や、貸し切り楽隊列車の走行など、三木が投じた宣伝費は一〇万円にのぼったという。その売れ行きは爆発的で、初版の数十万部はまたたく間に売り切れ、歌は全国津々浦々でくちずさまれ、はては花柳界で、芸者衆の三味線によって奏でられるまでとなった。増刷が重ねられる一方で、第二集、三集と続編も次々と出版された。山陽編、九州編と全国各地の地名や風物を織りこんだ曲は、なんと第五集、三三二番まで（後に九番を追加）作られた。そして楽譜の載った本は、大正初期までに実に二〇〇〇万部を売りつくしたのである。

軍事的要請が優先した「富国強兵」のインフラ

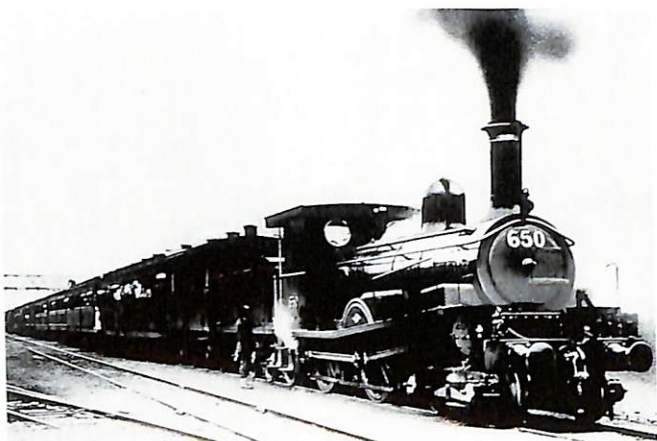
このヒットの背景には、次々と建設され、日本経済の牽引車ともなっていた当時の鉄道ブームの存在があった。

日本の鉄道史は、明治五年一〇月一四日の、新橋（現・汐留）―横浜（現・桜木町）間の開通に始まる。鉄道は、「富国強兵」をスローガンに掲げた明治政府の新国家建設の柱だった。つまり「富国」と「強兵」をともに保証する、基本的なインフラだったのである。だから、日清戦争にあたって、兵士や武器・弾薬、糧秣や軍馬などを送り出した広島県の宇品港（現・広島港）―広島駅間の五・九キロの工事を、わずか二週間の突貫工事で完成させている。兵員や物資の迅速・確実な輸送を保証する鉄道の整備が戦争の帰

▶「鉄道唱歌」第五集の歌稿が完結の頃、明治三三年一一月の大和田建樹の家族。後ろが大和田夫妻。

「鉄道唱歌物語」交通日本社提供

▶富士山をバックに、東海道本線、興津―由比間の薩埵峠の麓を行く旅客列車。東海道本線は、明治22年、新橋―神戸間が全通した。

毎日新聞社

▶明治三三年頃、東海道本線を走る旅客列車。牽引する機関車は、性能のよさを誇った六二七〇形。

▶明治二八年頃の、新橋（現・汐留）駅の構内。汐留川の船荷が散在している。中央に見えるのが駅舎。

毎日新聞社

ピエール・ロティが長崎で迎えた二〇世紀の始まり

佐伯 修

「日本では何もかも移り変るが、ゲイシャはまだきっと残っているにちがいなかった。そこで、先ほどから筋骨の逞しい短い脚で全速力に私を引いている人力車夫に、この心持を伝えると、『旦那』と車夫は答えて、『それじゃ一番上等な《お茶屋》へ御案内しましょう。《鶴の家》という家で、旦那のどんな気まぐれでも、よろこんで満たしてくれます』（中略）それは、モトカゴマチのすぐそばの路地の奥にある。ちょっとした構えの小さな門を入る。小さな築山。ままごとみたいな人造岩、背の低い老樹などのある可愛らしい小庭を横切る。《鶴の家》はその突き当りに、ごくつつましく、ごくもてなしのよさそうに建っている。この家にはほとんどヨーロッパ人が出入しないから、日本風な行き届いた清潔さが保たれている。（中略）私の言いつけはこうだ、一時間ばかりゲイシャを一人、つまり歌い女を一人と、マイコ、つまり踊り子を一人借りたい」（大井征訳）

この年一二月八日、フランスの作家、ピエール・ロティ（一八五〇～一九二三）は、長崎に入港した。海軍士官として、長年航海に明け暮れた彼は、一八八五年（明治一八）にも来日しており、一五年ぶりに見る長崎の港は、和船が姿を消し、緑の海岸線は無惨に開発されていたが、彼が何よりも気がかりだったのは、日本の「ムスメ」たちのこと。

右は、帰国後の一九〇五年に発表した日記形式の小説『お梅が三度目の春』から、作者の分身「私」が、上陸後、初めて芸者遊びをするくだりである。前回の来日の際、ロティは、しばらく日本女性と暮らし、そのことを『お菊さん』という小説に描いているが、当時、独りものの欧米人男性のために、一時的なパートナーとして、若い娘を金銭で斡旋するシステムがあったことがわかる。ロティの小説は、「ムスメ」という日本語をフランス国内に広めた。

さて、「私」は一九世紀最後の日、盆栽を眺め、長崎港内で二〇世紀を迎える。

「そして今日は、今年の、また今世紀の最後の日に当り、天候は暖く、爽快で静穏である。私はニッポン人の植木屋の家へ出かけて行った。この人々は父祖相伝えて長年の間、樹木を小さな鉢の中に入れ、小さな岩の間に押しこめて、虐待している」

「誰かが扉をそっと叩く。（中略）四、五人の水兵が、次々に入って来た。素朴な簡単な挨拶といっしょに、良き年と《良き世紀》を私のために祝ってくれる。そうだ、今日こそ二十世紀のはじまりなのだ」

▲『鉄道唱歌』の作曲者・多梅稚。

▲一世を風靡した『鉄道唱歌第1集、東海道編』。66番まである。

趨を大きく左右したのである。

ルートの選定にも、軍の意向が大きく影響した。たとえば東京―大阪間のルートも、海岸線では敵の攻撃を受けやすいからと、内陸を走る中山道が構想されていた。つまり、国民の生活の利便や、殖産興業よりも軍事的要請の方が優先していたのである。これは調査の結果、碓氷峠や木曾などの急峻な地形から断念されたが、こうした事例をあげればきりがない。日露戦争を前にした明治二八年から三〇年までの三年間では、全企業の新規資本投下額一四億六四〇〇万円のうち、過半を鉄道が占めていた。

また、明治三九年には鉄道の国有化が国会で議決されるが、この背景にも、鉄道がそれぞれの私企業で運営されていては軍事的に不都合だという理由が大きかったのである。連結器や車両の規格がまちまちでは、迅速な輸送に支障が生じるからである。

その一方で、鉄道は、社会のさまざまな領域にも大きな変化を産み出す存在でもあった。

「戦争、つまり軍事の要請が、一面ではめざましい技術の進歩をもたらした。そして鉄道も同様な面を持っている。列車の運行速度を上げるための技術革新だけを見ても、石炭の燃やし方、燃やす火室の大きさ、ボイラーの強さ、ブレーキ性能、客車の構造、線路、信号方式などきわめて広い領域の技術が問われる。特に明治期の日本にとって、鉄道事業と、それに関連する技術領域の持つ社会的な波及力は、現在とは比較できないほど大きなものでした」（ノンフィクション作家・橋本克彦氏）

ただひとつだけ、例として〝時刻の観念〟をあげておく。日本人に〝時刻の観念〟を植えつけた最大の要因は鉄道だった。列車の発着時刻を周知させるために、寺社の鐘が一時間ごとに打たれるようになったからだ。

そうした一方、明治三二年には山陽鉄道に日本で最初の寝台車が登場した。前年には同線で、やはり日本初の食堂車がお目見え。そして翌明治三四年には、新橋発神戸行き急行（所要時間・五時間三五分）にも食堂車が走り始めている。鉄道が民衆の身近なものとなってきたのである。明治三九年に鉄道が国有化され、国鉄（現・JR）の原形ができた時点で、国内の鉄路の総延長は、約七七〇〇キロに達していた。

往きて還らぬ

▲8月26日　飯田武郷（72）
国学者。幕末、尊王運動に奔走。東大教授などを歴任。明治32年、45年かけた大著『日本書紀通釈』（70巻）を完成。

▲11月2日　大西祝（36）
東京専門学校（現・早大）で哲学、心理学などを教え、市民派哲学者と言われた。『大西博士全集』（全7巻）がある。

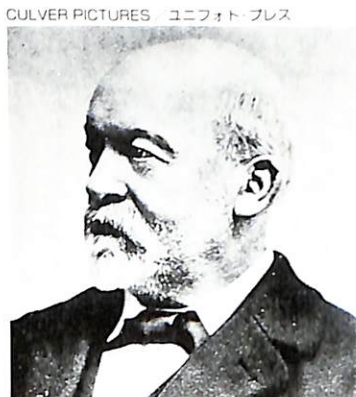
▲11月30日　オスカー・ワイルド（46）
英の作家で、機知と才気で世紀末デカダンスの寵児となる。1895年男色罪で投獄。著書に『サロメ』『幸福な王子』。

▲8月11日　初代三遊亭円朝（61）
落語家。16歳で円朝を名乗り、派手な衣裳、演出で人気を得る。「真景累ケ淵」など創作も多く、三遊派中興の祖。

▲8月23日　黒田清隆（59）
政治家。幕末、討幕運動を展開する。維新後は北海道開拓に尽力。明治21年首相に就任するが、翌年辞任。

▲8月25日　F・ニーチェ（55）
独の哲学者で、実存主義哲学の先駆者として知られる。『ツァラトゥストラはかく語りき』『善悪の彼岸』など。

▲2月26日　品川弥二郎（56）
政治家、子爵。松下村塾に学ぶ。明治18年駐独日本公使。後に枢密顧問官、内相を歴任。信用組合設立にも尽力。

CULVER PICTURES／ユニフォト・プレス

▲3月6日　G・ダイムラー（65）
独の機械技術者で、4サイクルのガス機関の発明者。1890年ダイムラー自動車会社設立、後にベンツ社と合併。

▲3月8日　外山正一（51）
教育者。明治30年東京帝大総長、31年文相。ローマ字採用の提唱など啓蒙活動を展開。正則中学の創設にも貢献。

毎日新聞社

▲4月4日　初代高砂浦五郎（61）
力士。明治2年入幕、最高位、前頭筆頭。力士の待遇改善を訴え、相撲界の近代化に貢献、協会の取締もつとめた。

▲1月5日　秋月悌次郎（75）
幕末の会津藩士。官軍と戦い終身禁固刑に処せられる。明治5年許され、新政府に出仕。後、東大で教鞭をとる。

▲1月20日　J・ラスキン（80）
英の批評家。美術批評でスタートし、その後、関心は社会問題に向かった。主著に『建築の七灯』『胡麻と百合』。

▲2月4日　税所敦子（74）
歌人。明治8年宮中に出仕、皇后・皇太后に仕える。歌集に『御垣の下草』、随想に『心つくし』がある。

ミニ事典
1900年のキーワード

年者の政談集会参加の禁止、労働者・小作人の団結と争議行為の禁圧、違反者に対する処罰規定などからなり、育ち始めた労働運動に大きな打撃を与えた。

三井財閥乱脈攻撃キャンペーン
東京の日刊新聞「二六新報」が、四月二九日から連日のように行った、三井一族の「乱行・醜行」に対する暴露攻撃。芸者遊び・賭博行為などのほか、矛先は三井グループ企業の経営にもおよんだ。五月に内務省命令により二度、連載停止。伊藤博文・井上馨らの斡旋で三井家が綱紀粛正の新家憲制定、社会公共事業を興すことなど、「二六新報」の要求を受け入れたため、攻撃は停止された。

「軍艦マーチ」
鳥山啓作詞・瀬戸口藤吉作曲の海軍軍歌「軍艦」を、行進曲に編曲したもの。欧米列強の仲間入りをねらう日本の「強い海軍」への思いをこめ、四月三〇日、神戸沖で行われた観艦式で初めて披露された。以降、太平洋戦争敗戦まで、海軍の観艦式・観兵式などの式典のテーマ曲として演奏。「守るも攻むるも鉄の浮かべる城ぞたのみなる」の歌詞は、国民の間に広く浸透した。

山田式気球
山田猪三郎が発明した日本初の円筒形係留気球。この年二月二日、特許を取得。軍用気球の完成を急いでいた陸軍に採用された。陸軍は、かねてから、気球による敵状視察・弾着観測・通信などの用途に着目していたが、それまでのものは形や塗料・ガス発生器など、実用に供するには不十分だった。「山田式」は四年後の日露戦争で、旅順総攻撃に際して初めて実戦に使用された。

▶明治三三年一二月、陸軍の手で行われた山田式気球の浮揚実験。

▶観艦式当日の様子。参加艦艇は四九隻。満艦飾をほどこして、夜間はイルミネーションを点灯した。

治安警察法
労働運動・社会運動の台頭に対応するため、集会・結社・言論の自由を規制した治安立法。三月一〇日公布、同三〇日施行。結社・集会の届け出の義務化、教員・公務員・学生などの政治結社加入の禁止、女子・未成年者の政談集会参加の禁止（→前出）

中国の門戸開放宣言
ジョン・ヘイ米国務長官が、中国の「義和団事件」に関与している日・英など一一ヵ国に対し、中国の領土と行政の保全、中国のすべての地域での平等な通商を要請した宣言。七月三日、各国に通牒。前年九月に続き二度目。ヘイは「義和団事件」の原因を列国の干渉と侵略にあるとし、中国に対する米国の権益を守るには各国の協調が必要と考えていた。

▶ヘイ米国務長官。中国での米の利権確保や、パナマ運河実現に貢献した。

京仁鉄道
韓国の首都・漢城（現・ソウル）と、黄海に開く港湾都市・仁川を結ぶ、朝鮮最初の鉄道。全長四二キロ。一一月一二日に開業。明治二七年の日韓暫定合同条款で、日本は京釜鉄道とともにその敷設権を得たが、日清戦争後の三国干渉などにより、米国に権利を売り渡していた。前年、三井・三菱ら資本家が政府の借り入れを加えて敷設権を買い戻し、京仁鉄道合資会社（社長・渋沢栄一）を設立。三六年には京釜鉄道と合併、日本の大陸進出を支えた。

第三次改正小学校令
尋常小学校を四年制に統一、義務教育の授業料を無料とするなど、小学校制度の基礎が固められた法律。八月二〇日、公布。これにともない、文部省は教科を整理して国語科をおき、漢字の数を一二〇〇字に制限するなどの改定を行った。小学校令は明治一九年、初代文相・森有礼によって定められ、義務制確立は就学率を九割にも押し上げた。明治四〇年、尋常小学校は六年に延長された。

娼妓自由廃業
前借金などで縛られた娼妓が、法的手段によって苦界を抜け出すこと。娼妓は貸席業者などと契約を結んで営業するが、この年二月、大審院がこの種の契約を無効と判決、救世軍などによる廃娼運動が一気に盛り上がった。この過程で、洲崎遊廓で活動中の英国人・デュースが暴行を受ける事件が発生。政府は外交問題化をおそれ、一〇月二日、娼妓取締規則を公布、自由廃業を明文化した。これにより、警察署に届け出れば自由に廃業できることになったが、根本的な解決にはならなかった。

フィラデルフィア管弦楽団
米国・フィラデルフィアの市民が、一万五〇〇〇ドルの基金を集めて創立した、世界初の市民オーケストラ。一一月一六日、同市で第一回コンサートを開催。フリッツ・シールが指揮をつとめた。その後、ストコフスキー、オーマンディ、ムーティなど有能な指揮者が次々に管弦楽団をリード、豊饒な音色の「フィラデルフィア・サウンド」を生み出し、世界屈指のオーケストラに育っていった。

東京市会汚職
水道鉛管納入などをめぐる、東京市会の汚職事件。政友会の星亨派の市議・業者ら三人が起訴される事件に発展。一二月一五日には、市参事会員で現職の逓信大臣、しかも政友会の大物である星亨が告発された。大胆・強引な政治手法で「押し通る」の異名を持つ星は、前年、政友会系市議を集めて「都市懇談会」を創設、築港、鉄道建設など市合理化計画を進めたが、黒い噂が絶えなかった。結局、星は不起訴。しかし、一二月、逓信相辞任に追いこまれた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1900

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　森邦久　結城順一　吉田忠正

●写真協力
飯田守　生出恵哉　小森谷信治　坂井溥　佐々木烈　但馬　憲　田代真一
オリオン・プレス　CULVER PICTURES　くれせんと　交通日本社　デジタルハウス　日刊自動車新聞社　HULTON　GETTY　bpk　PPS　平凡社　Popperfoto　毎日新聞社　Mary Evans Picture Library　有隣堂　ユニフォト・プレス　小岩井農場　新日本製鉄八幡製鉄所　凸版印刷　北海道拓殖銀行　都ホテル　森永製菓　丸善　王舎城美術宝物館　呉市企画部海事博物館推進室　憲政記念館　県立秋田高校同窓会事務局　神戸市水道局　古文書複製社　金光教本部　三康図書館　交通博物館　JRA　セイコー時計資料館　高島屋資料館　秩父宮記念スポーツ博物館　津田塾大学津田梅子資料室　東逓信総合博物館　東京芸術大学大学美術館　東京女子医科大学　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　東芝科学館　徳富蘆花記念館　日仏会館図書室　日本近代文学館　日本自転車普及協会自転車文化センター　日本漫画資料館　日本郵船歴史資料館　野口英世記念会　野間教育研究所　浜松市楽器博物館　藤田美術館　野球体育博物館　UCLA　吉澤野球史料保存館　ラルース・アーカイブ　立命館大学　ルーブル美術館　早稲田大学演劇博物館　早稲田大学図書館

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀
第100号 2月16日（火）発売 定価560円 本体533円
毎週火曜日発売　講談社

1868～99 ［明治元～32年］

●特集
新興国・日本、“眠れる獅子”と対決「日清戦争」開戦！／帝都の盛り場・浅草“評判記”赤煉瓦の高層ビル「凌雲閣」建つ！／西欧とのはざまを生きた“明治の花嫁”花・ベルツとクーデンホーフ光子／不平士族が要人を襲う血塗られた明治　明治一一年「大久保利通暗殺」事件！

●ニュース・ファイル
フォト＋重要日録で再現する明治元年～32年…岩倉使節団、欧米へ（4年12月23日）／クラーク博士、来日（9年7月31日）／板垣退助、岐阜で襲われる（15年4月6日）／大日本帝国憲法、発布（22年2月11日）／大津事件起こる（24年5月11日）／濃尾大地震（24年10月28日）／閔妃殺害事件起こる（28年10月8日）／第一回近代五輪開催（29年4月6日）

●人物クローズアップ
福沢諭吉、『学問のすゝめ』刊行！

●決定的瞬間
「西南戦争」で西郷隆盛軍完敗！

●美の出会い
「横浜写真」元祖・下岡蓮杖が撮った日本

●女たちの肖像…樋口一葉と「たけくらべ」／勝者・敗者…一高野球部、初の国際試合／証言・あの日この日…福地桜痴、山川捨松／「現場」を歩く…秩父、困民党への再評価／20世紀博物館…市立函館博物館五稜郭分館（北海道）／外から見たNIPPON…サトウの日本旅行ガイド

●ベストセラー…仮名垣魯文『安愚楽鍋』／スターと名場面…九代目市川団十郎／モノ語り…「福原衛生歯磨石鹸」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊99冊！ 1900・1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九〇〇年代　第81号1901［明治34年］
一九一〇年代　第71号1911［明治44年］
一九二〇年代　第62号1921［大正10年］
一九三〇年代　第43号1931［昭和6年］
第49号1937［昭和12年］
一九四〇年代　第19号1941［昭和16年］
第22号1944［昭和19年］
第3号1945［昭和20年］
一九五〇年代　第36号1951［昭和26年］
一九六〇年代　第12号1961［昭和36年］
一九七〇年代　第29号1971［昭和46年］
一九八〇年代　第53号1981［昭和56年］
一九九〇年代　第91号1991［平成3年］
第92号1992［平成4年］
第93号1993［平成5年］
第94号1994［平成6年］
第95号1995［平成7年］
第96号1996［平成8年］
第97号1997［平成9年］
最新刊　第98号1998［平成10年］

「日録20世紀・スペシャル」刊行決定！
1999年2月23日（火）刊行開始（本編100号終了後すぐ）。全20巻！

スペシャル第1号 日中戦争全記録！

スペシャル第2号 太平洋の戦い！

スペシャル第3号 悲劇の島・沖縄！

1. 日中戦争全記録！　幻のニュース写真［1］（2月23日発売）
2. 太平洋の戦い！　幻のニュース写真［2］（3月2日発売）
3. 悲劇の島・沖縄！　幻のニュース写真［3］（3月9日発売）
4. 天皇家の1世紀
5. 20世紀二都物語・東京と大阪
6. スクープ写真集！　外国人が撮った「不思議の国NIPPON」
7. 20世紀災害史
8. ヒット商品「100年ブランド」
9. 20世紀「号外」集成
10. 20世紀「男と女の事件簿」
11. 秘話！　日本選手、かく戦えり
12. 怪盗・怪事件ファイル
13. 20世紀の発見・発掘物語
14. 我らの「テレビ時代」
15. 20世紀「食」事始め
16. 失われた“国宝”
17. 懐かしのオモチャ・絵本・遊び
18. 革命の20世紀「消えた王朝・帝国」
19. 20世紀「ヒット曲」物語
20. 20世紀「ライバル」物語

雑誌 23724-2/23
Ⓛ-2001/1/1

T1123724020563

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社